

Financial Results for the Second Quarter of
the Fiscal Year Ending December 31, 2022

COPYRIGHT 2022 Cacco Inc.

かっこ株式会社 | 証券コード:4166

2022年8月12日

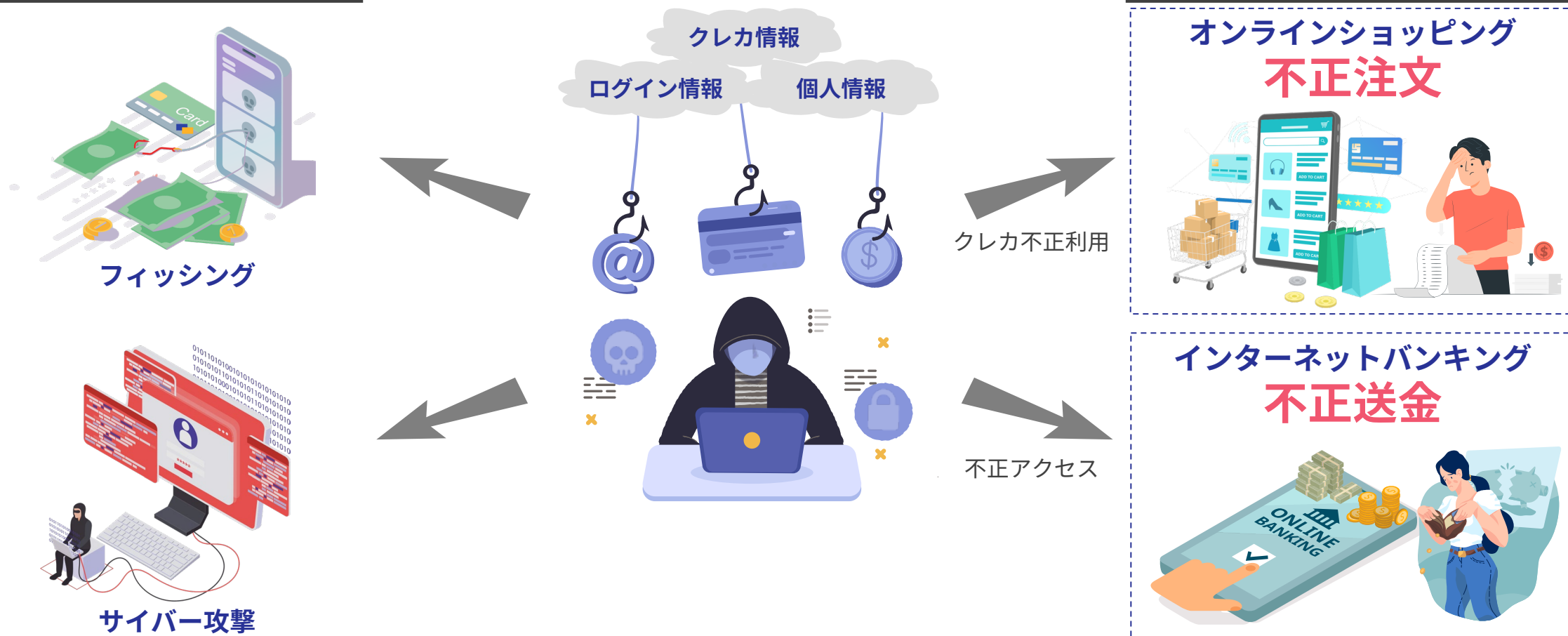


2022年12月期 第2四半期 決算説明資料

フィッシングやサイバー攻撃により窃取した情報を悪用した不正犯罪が急増しており対策が急務となっています。

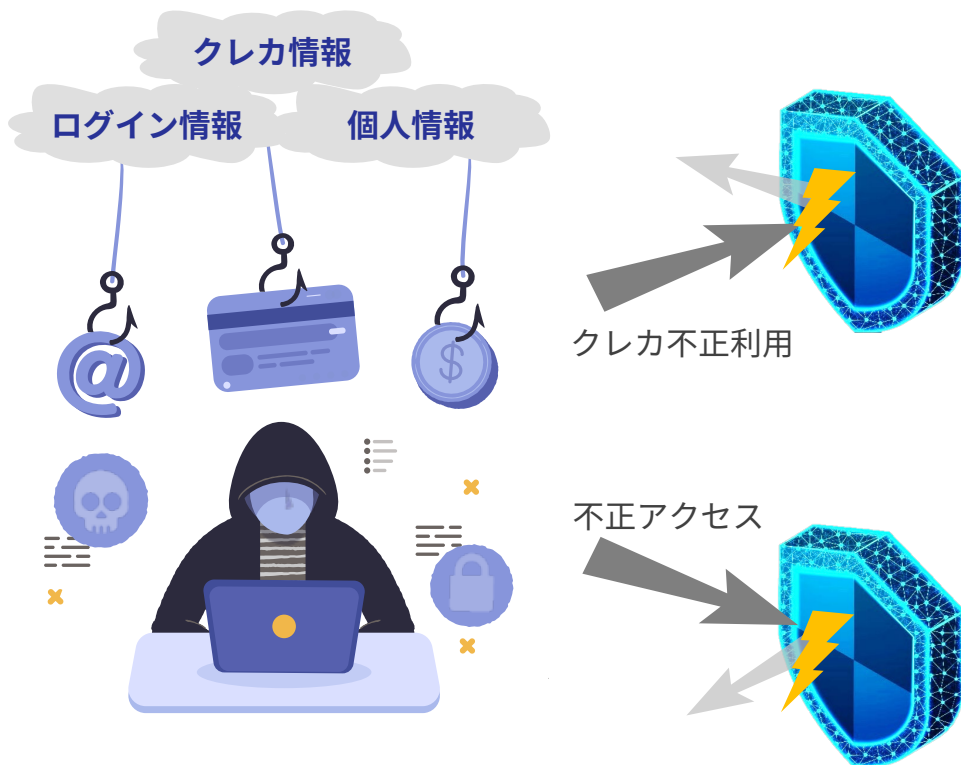
情報窃取

窃取した情報を悪用した不正犯罪



かっこの不正検知サービスは国内導入数No.1※ 安心・安全なECのインフラ構築に貢献しています。

かっこが不正を検知



不正注文検知サービス

O-PLUS

- ◆ 4年連続国内導入数No.1の実績
- ◆ 2万サイトの不正情報を共有
- ◆ ECカートと多数連携

不正アクセス検知サービス

O-MOTION

- ◆ 証券会社・銀行が採用
- ◆ Bot・なりすましを自動検知
- ◆ 端末特定技術で特許取得

安心・安全な オンラインショッピング



安心・安全な インターネットバンキング

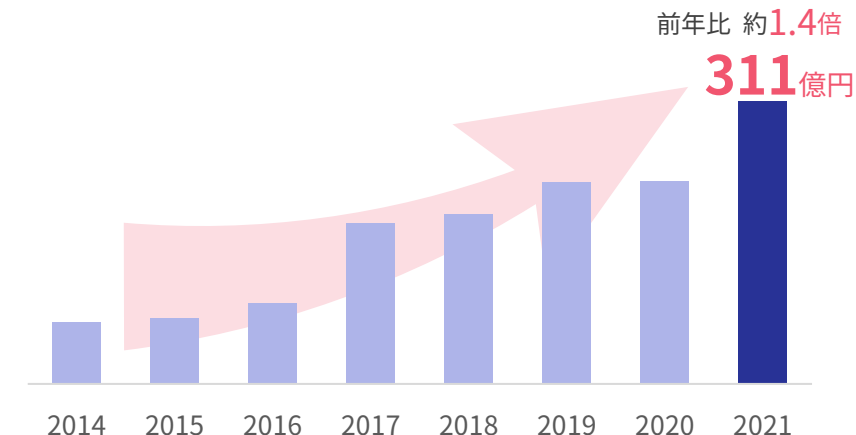


※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2022年5月末日時点

不正対策への社会的要請はますます高まっており、不正検知サービスの市場規模はさらなる拡大が予測されます。

- 不正被害の急増に伴い、割賦販売法改正、クレジットカード・セキュリティガイドラインのアップデート等、不正対策に関する規制が年々強化されています。

クレカ不正被害額（番号盗用）の推移



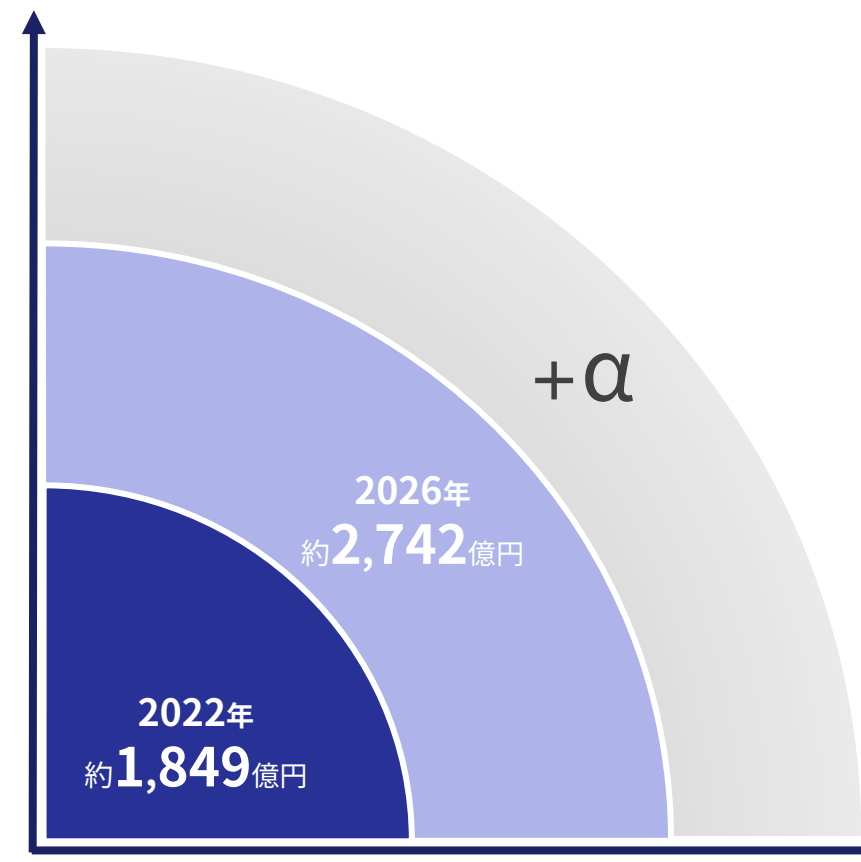
出典：一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」2022年3月

不正アクセス後の不正行為ランキング

- 1位 インターネットバンキングでの不正送金等
- 2位 インターネットショッピングでの不正購入
- 3位 メール盗み見等の情報の不正入手
- 4位 知人になりすましての情報発信
- 5位 オンラインゲーム・コミュニティサイトの不正操作

出典：警察庁・総務省・経済産業省 令和4年「不正アクセス行為の発生状況及びアクセス制御機能に関する技術の研究開発の状況(令和3年度)」

国内不正検知サービスの市場規模



出典：「FRAUD DETECTION AND PREVENTION Global Market Trajectory & Analytics GLOBAL INDUSTRY ANALYSTS.INC. 2021年5月」(1ドル=110円で計算)

Cacco Evolutionary Purpose

未来のゲームチェンジャーの「まずやってみよう」をカタチに

Cacco Evolutionary Purposeには、世の中をよりよくしていこうと挑戦する人や企業に寄り添い、日本経済の発展に貢献していきたいという想いが込められています。

創業当時、インターネット取引における不正は少なく、世の中に十分な機能を備えた不正検知サービスもありませんでしたが、私達は、近い将来、ECをはじめとするあらゆるインターネット取引において、多様かつ膨大な不正行為が発生するであろうと考えていました。

それから約10年、私達の予想通り、不正行為はあらゆるインターネット取引において発生しており、その手口はより複雑化するとともに、さらに進化・拡大を続けております。

『O-PLUX』は、2012年のリリース以降、進化する脅威にも十分対応できるよう開発を重ねてきた結果、現在では日本国内導入数No.1※のご評価をいただいております。

かっこは、今後も、セキュリティ・ペイメント・データサイエンスの技術で新しい価値を作り上げる会社として、Cacco Evolutionary Purposeを実現し、企業価値の持続的な向上を目指してまいります。



※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2022年5月末日時点

目次

- 1 2022年12月期 第2四半期業績
- 2 成長戦略
- 3 2022年12月期 通期業績見通し
- 4 APPENDIX（会社概要・事業内容・その他参考資料）

2022年12月期 第2四半期業績

Financial Results for the Second Quarter of
the Fiscal Year Ending December 31,2022



売上高

516百万円

前年同期累計比 **+14.6%**
計画進捗率 **46.8%**

O-PLUX ストック収益※

373百万円

前年同期累計比 **+9.7%**

※定額課金である月額料金+審査件数に応じた従量課金である審査料金

O-PLUX 解約率

0.23%

前年同期累計比 **+0.07pt**

経常利益

88百万円

前年同期累計比 **▲1.6%**
計画進捗率 **45.4%**

O-PLUX 審査件数

3,316万件

前年同期累計比 **+7.3%**

海外展開の進捗

- ◆ 東南アジア市場の調査完了
 - ◆ 現地テスト顧客の開拓に着手
-

(金額単位：百万円)

	FY2021 2Q累計	FY2022 2Q累計	前年同期 累計比	FY2022 通期予想	進捗率
売上高	450	516	+14.6%	1,102	46.8%
(不正検知サービス売上高)	380	421	+10.9%	875	48.1%
営業利益	94	87	▲8.0%	191	45.4%
(営業利益率)	21.0%	16.9%	▲4.1pt	17.4%	-
経常利益	90	88	▲1.6%	195	45.4%
(経常利益率)	20.0%	17.2%	▲2.8pt	17.7%	-
当期純利益 (四半期純利益)	61	60	▲2.3%	137	43.8%

業績サマリ

中核である不正検知サービスの順調な新規顧客獲得により、過去最高の四半期累計売上高516百万円を達成

- ◆ 「O-PLUX」に係る新規顧客獲得の順調な進捗により、FY2022 2Q累計売上516百万円（前年同期累計比+14.6%）に到達。
- ◆ 各段階利益率は、O-PLUXアーキテクチャ刷新による減価償却費増加の影響で、前年同期累計比では減少したものの、当該影響を除けば、各段階利益率は改善基調。また、営業力強化を目的とした人員補強を着実に実行。
- ◆ 成長戦略の一つである東南アジアに関する事業調査を終え、現地テスト顧客の開拓に着手。

2022年12月期 第2四半期業績・売上高の推移

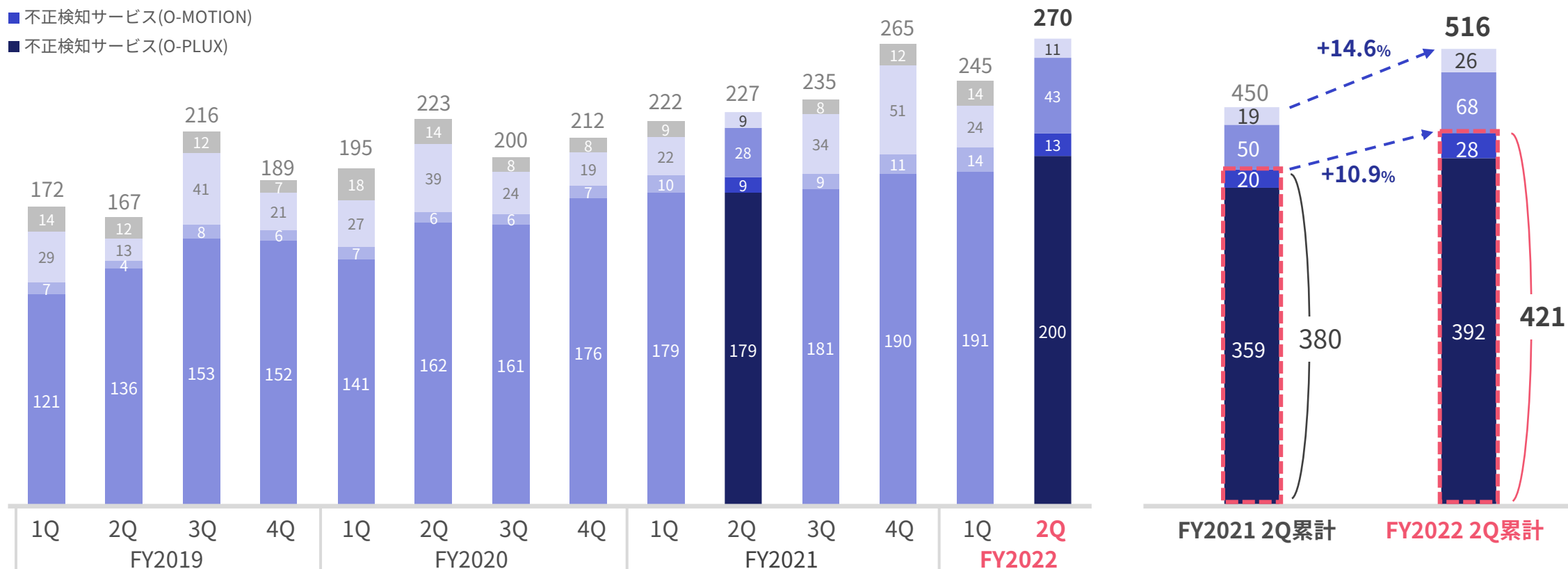


中核である不正検知サービスの新規顧客獲得が進捗し、過去最高の四半期累計売上高**516**百万円（前年同期累計比+14.6%）を達成。

売上高推移

（金額単位：百万円）

- データサイエンスサービス
- 決済コンサルティングサービス
- 不正検知サービス(O-MOTION)
- 不正検知サービス(O-PLUX)



※第3回目以降の緊急事態宣言では特需傾向なし

2022年12月期 第2四半期業績・サービス別売上高構成比の推移



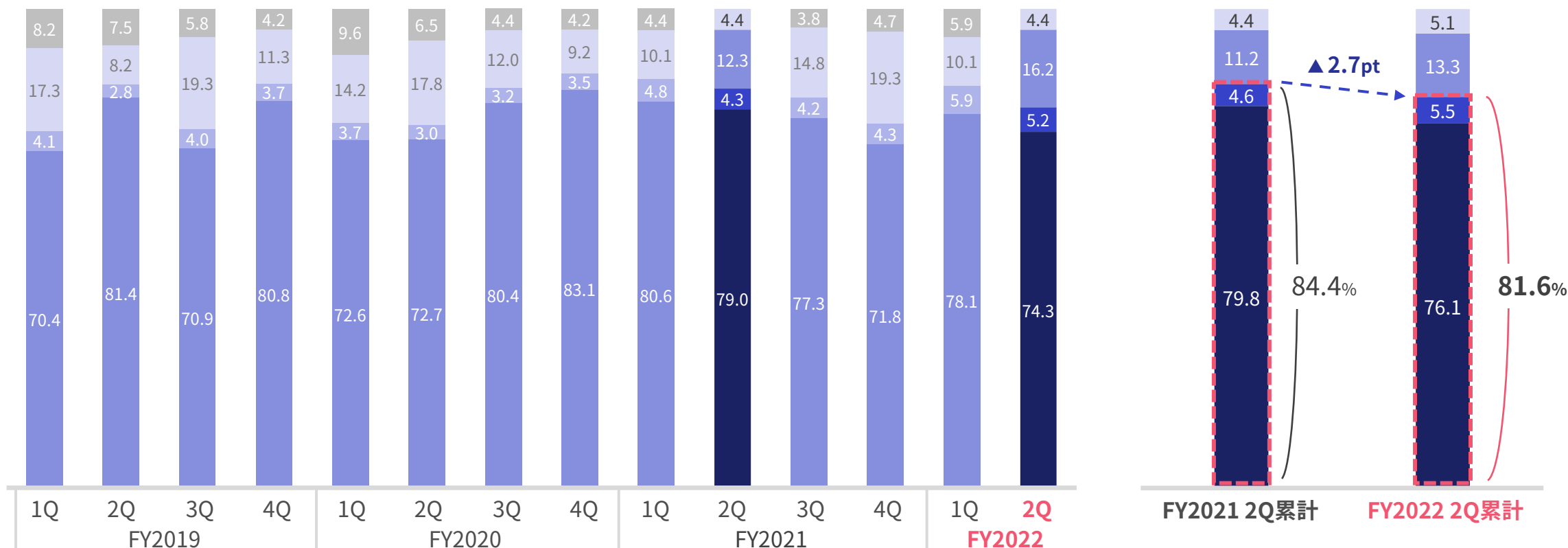
中核である不正検知サービスの売上高構成比は**81.6%**（前年同期累計比▲2.7pt）に着地。

- 決済コンサルティングサービス及びデータサイエンスサービスの売上拡大により、不正検知サービスのFY22 2Q 売上高構成比は前年同期累計比で減少したものの、売上高自体は着実に成長を持続。

サービス別売上高構成比推移

(単位：%)

- データサイエンスサービス
- 決済コンサルティングサービス
- 不正検知サービス(O-MOTION)
- 不正検知サービス(O-PLUX)



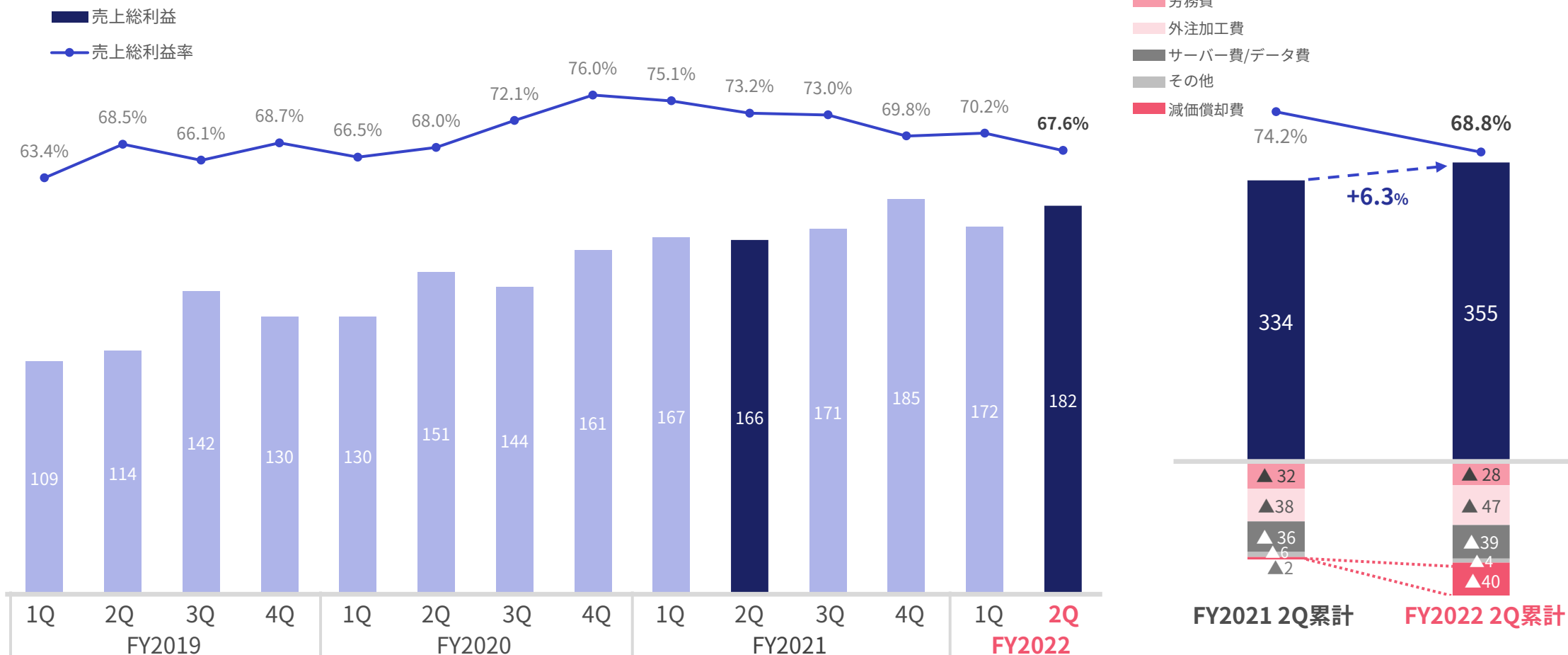
2022年12月期 第2四半期業績・売上総利益の推移



減価償却費増加により、売上総利益率は**68.8%**（前年同期累計比▲5.4pt）となったものの、金額ベースでは**前年同期累計比+6.3%**に拡大。減価償却費増加の影響を除けば、売上総利益率は改善基調にあり、今後更なる改善を見込む。

売上総利益推移

(金額単位：百万円)



2022年12月期 第2四半期業績・営業利益・販売費及び一般管理費の推移

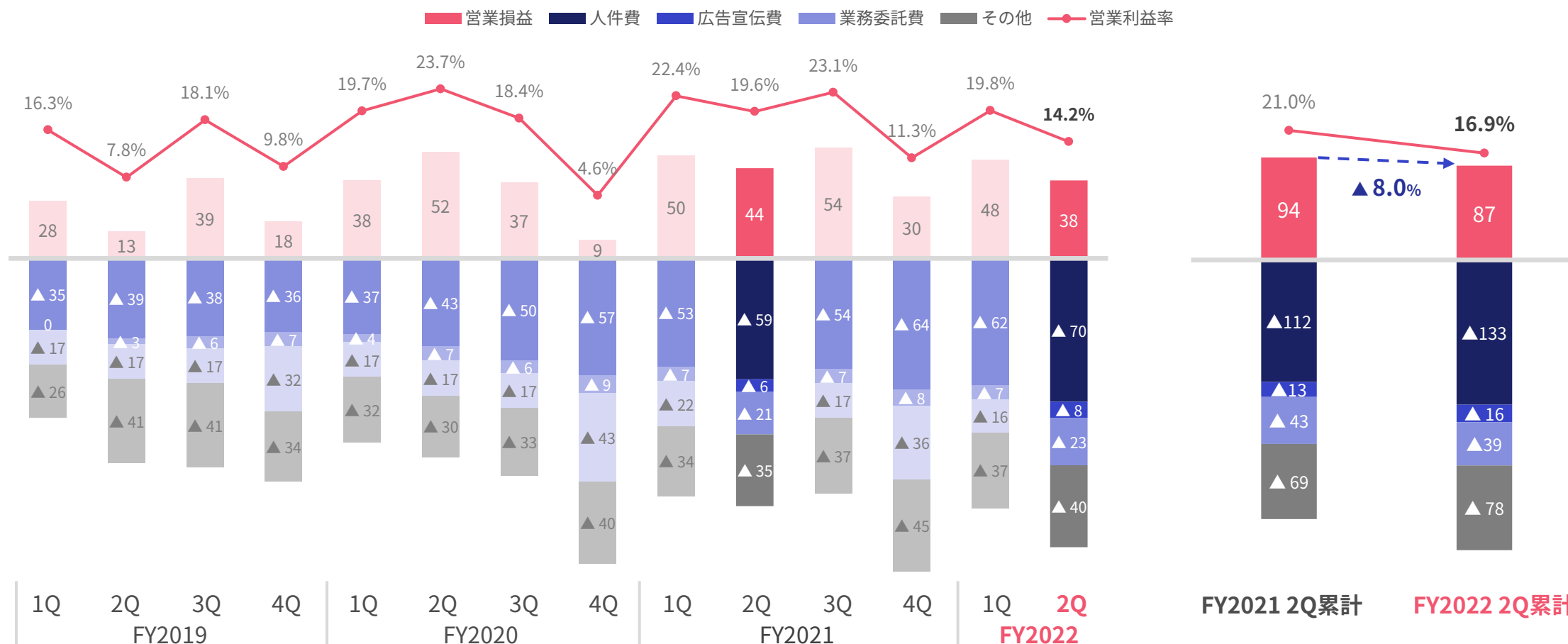


営業利益は前年同期累計比▲8.0%、営業利益率は16.9%（前年同期累計比 ▲4.1pt）に着地。

- 減価償却費増加による売上総利益率の低下（前頁参照）が影響するも、今後のO-PLUXアーキテクチャ刷新のコスト抑制効果による更なる利益率向上を見込む。また、営業人員を中心とした増員により更なる販売拡大を目指す。

営業利益・販売費及び一般管理費推移

（金額単位：百万円）



2022年12月期 第2四半期業績・EBITDAの推移

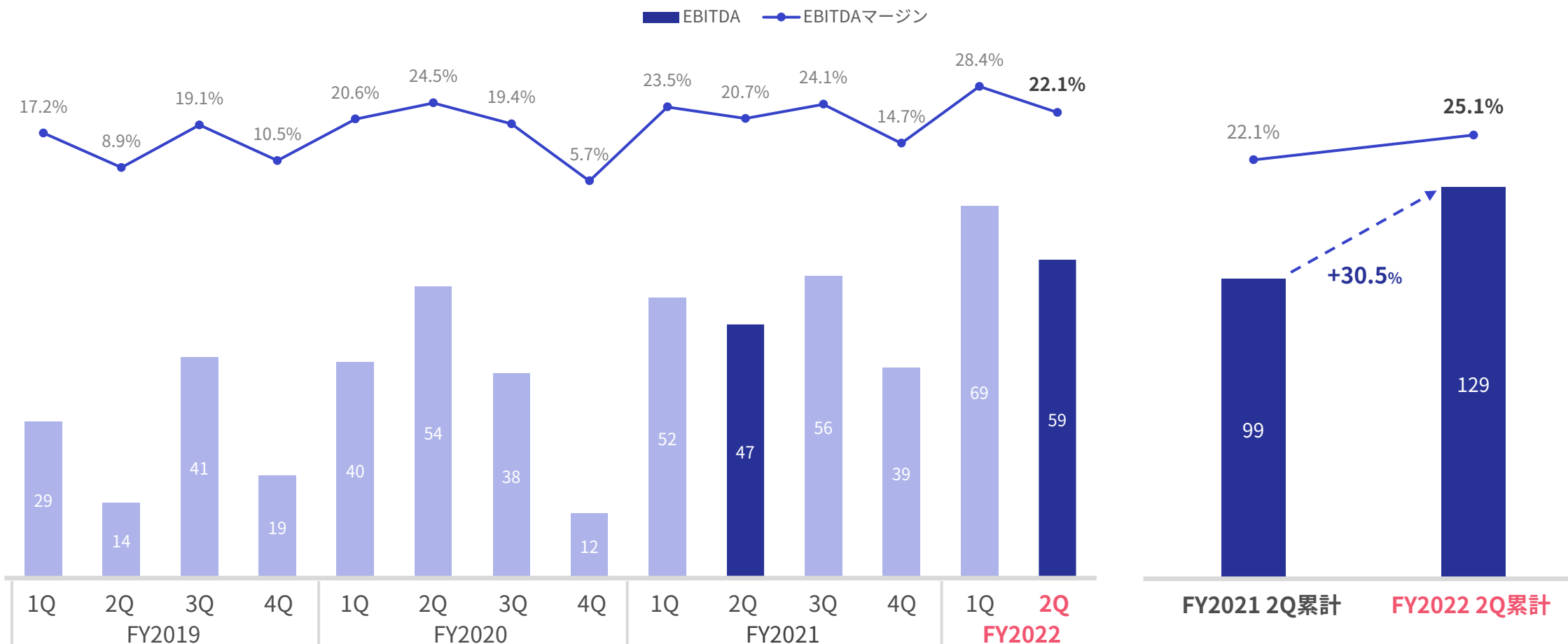


EBITDAは**130**百万円（前年同期累計比+30.5%）、EBITDAマージンは**25.1%**（前年同期累計比+3.1pt）に拡大。

- O-PLUXアーキテクチャ刷新に係るソフトウェア開発の完了に伴い改善。

EBITDA推移

(金額単位：百万円)



2022年12月期 第2四半期業績・「O-PLUX」のストック収益の推移

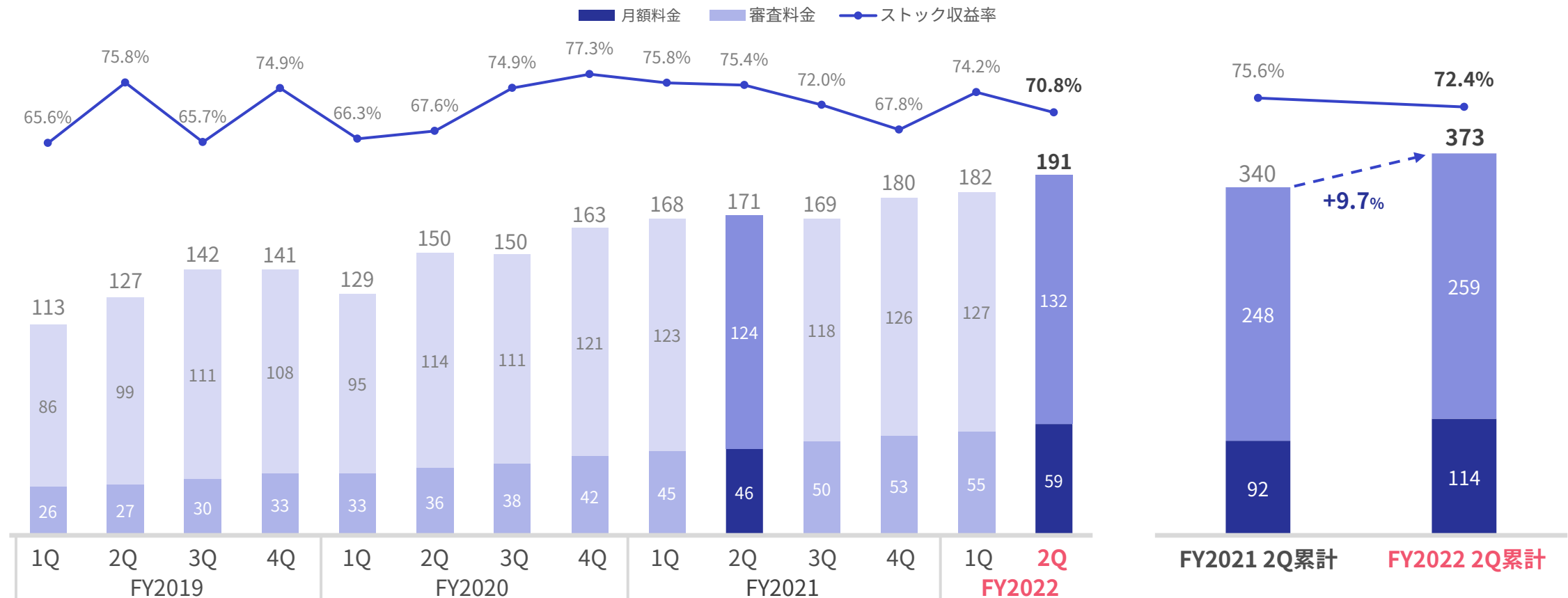


「O-PLUX」のストック収益は前年同期累計比+9.7%に拡大。ストック収益率は72.4%（前年比▲3.2pt）に着地。

- 決済コンサルティングサービス及びデータサイエンスサービスの売上拡大により、ストック収益率は前年同期累計比で低下したものの、ストック収益自体は着実に成長を継続。

「O-PLUX」のストック収益の推移

(金額単位：百万円)



※ストック収益＝定額課金である月額料金＋審査件数に応じた従量課金である審査料金（「不正チェッカー」を含む）

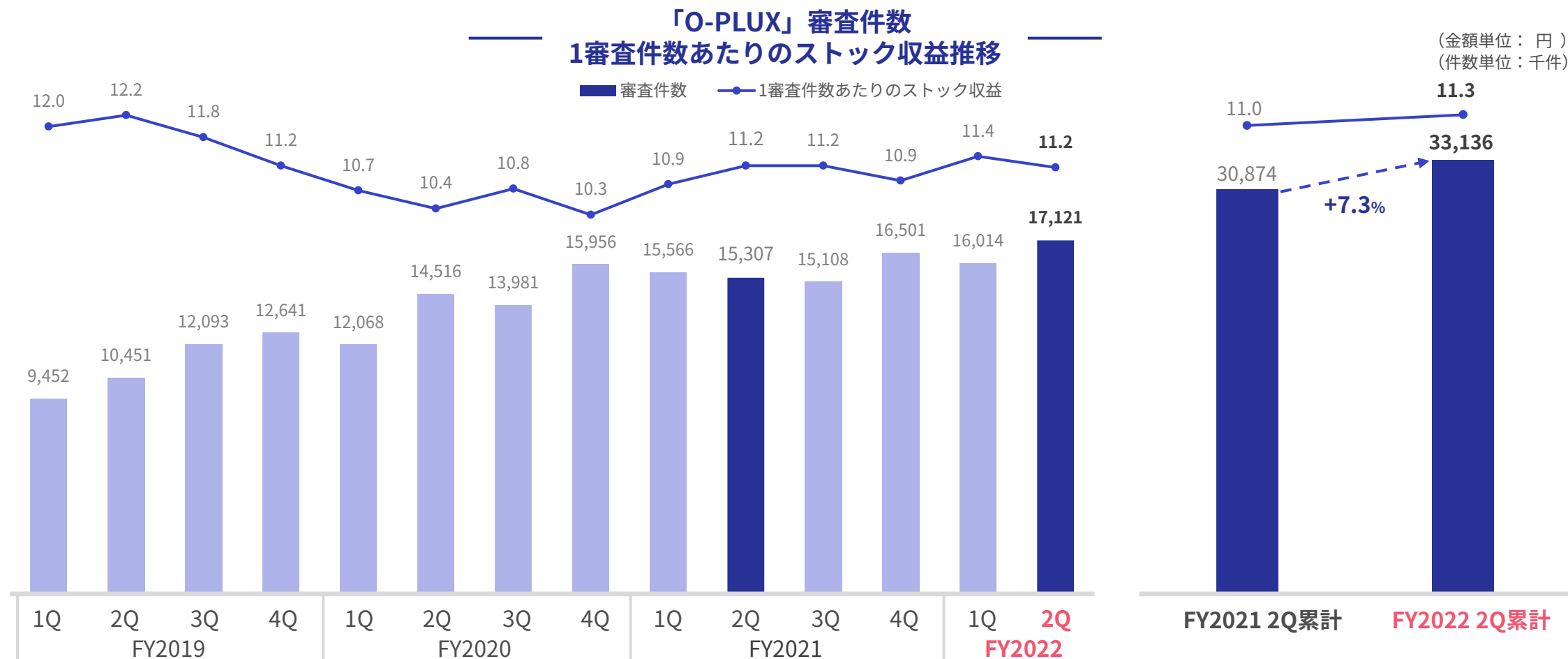
※ストック収益率＝ストック収益÷売上高（全サービス合計）

2022年12月期 第2四半期業績・「O-PLUX」の審査件数の推移



「O-PLUX」の審査件数は、**前年同期累計比+7.3%**増加。

- FY22 2Qの審査件数は、EC事業者の新規顧客獲得が順調に進み、着実に拡大を持続。

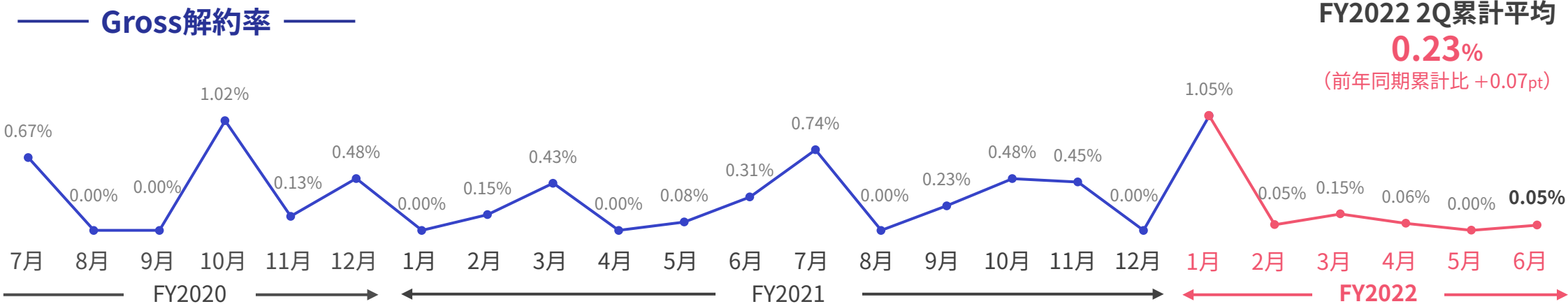


※ストック収益＝定額課金である月額料金＋審査件数に応じた従量課金である審査料金（「不正チェッカー」を含む）

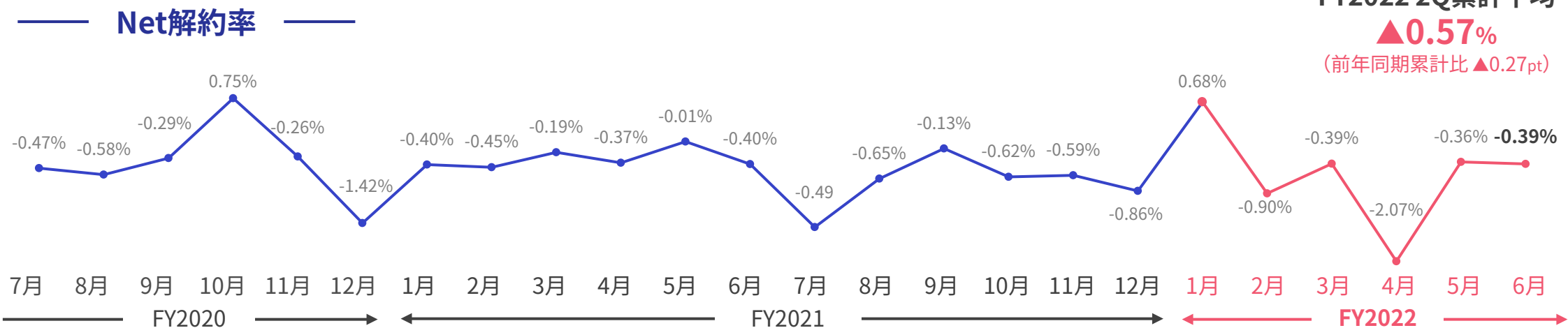
2022年12月期 第2四半期業績・「O-PLUX」月次解約率の推移



「O-PLUX」の月次解約率は引き続き低位で推移し、ネガティブチャーンを継続。



※Gross解約率=当月解約ストック収益の年間平均 ÷ 当月初時点のストック収益



※Net解約率=(当月解約ストック収益の年間平均-当月新規ストック収益) ÷ 当月初時点のストック収益

2022年12月期 第2四半期業績・貸借対照表



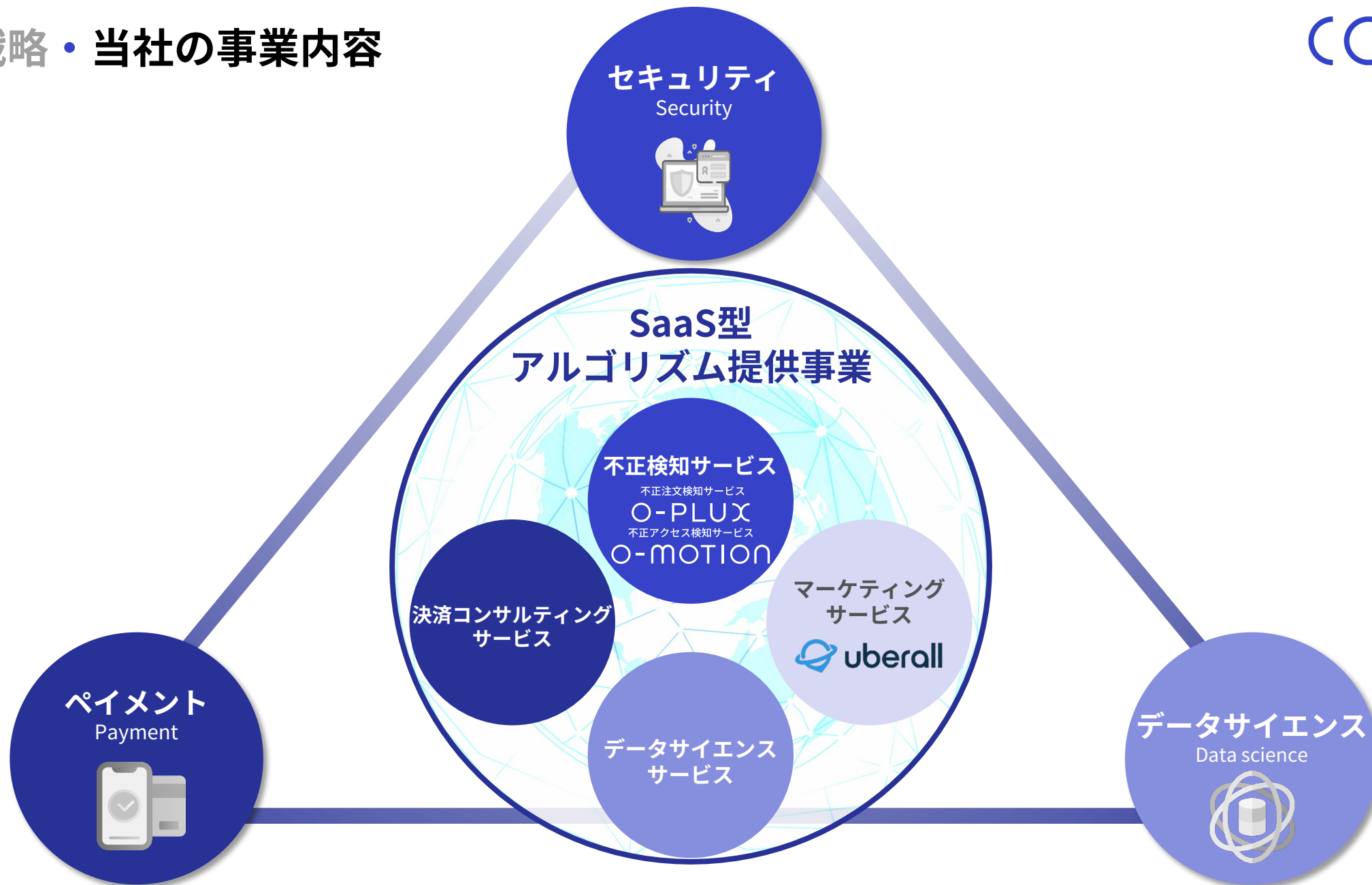
(金額単位：百万円)

	FY2022 1Q	FY2022 2Q	増減率	主な要因
流動資産	898	986	+9.8%	現預金の増加
(現 預 金)	769	846	+10.0%	
固定資産	488	470	▲3.7%	
総 資 産	1,387	1,457	+5.1%	
流動負債	84	121	+44.9%	システム開発に係る未払金の増加
固定負債	726	0	▲100%	
純 資 産	1,302	1,335	+2.5%	四半期純利益の計上による利益剰余金の増加
自己資本比率	93.7%	91.4%	▲2.2pt	

成長戦略

Growth Strategy





セキュリティ・ペイメント・データサイエンスの技術・ノウハウを活用し、ゲームチェンジャーのさまざまなチャレンジを支援するSaaS型アルゴリズムを開発・提供。

不正検知サービス

不正注文検知サービス

O-PLUX

EC決済、転売などにおける代金未払い等の不正注文をリアルタイムに検知。

不正アクセス検知サービス

O-MOTION

金融機関・会員サイト等における不正アクセス・不正ログインをリアルタイムに検知。

不正検知領域の特許を3件保有。

特許第6534255号

特許第6534256号

特許第6860156号

決済コンサルティングサービス

主にBNPL事業者に向けて、決済システムの提供、BNPL事業のコンサルティングを実施。

審査エンジンは「O-PLUX」を使用。

SaaS型BNPLシステム

初期投資のかからないSaaS型で決済システムを提供することで、BNPL市場の更なる開拓を図る。(2022年下期リリース予定)

マーケティングサービス



店舗情報・口コミ情報を統合管理し、ローカル検索表示順位向上による来店数増加等をMEO対策を支援。

データサイエンスサービス

AI・統計・数理最適化の技術を用いたデータ解析及びアルゴリズムの開発・提供。

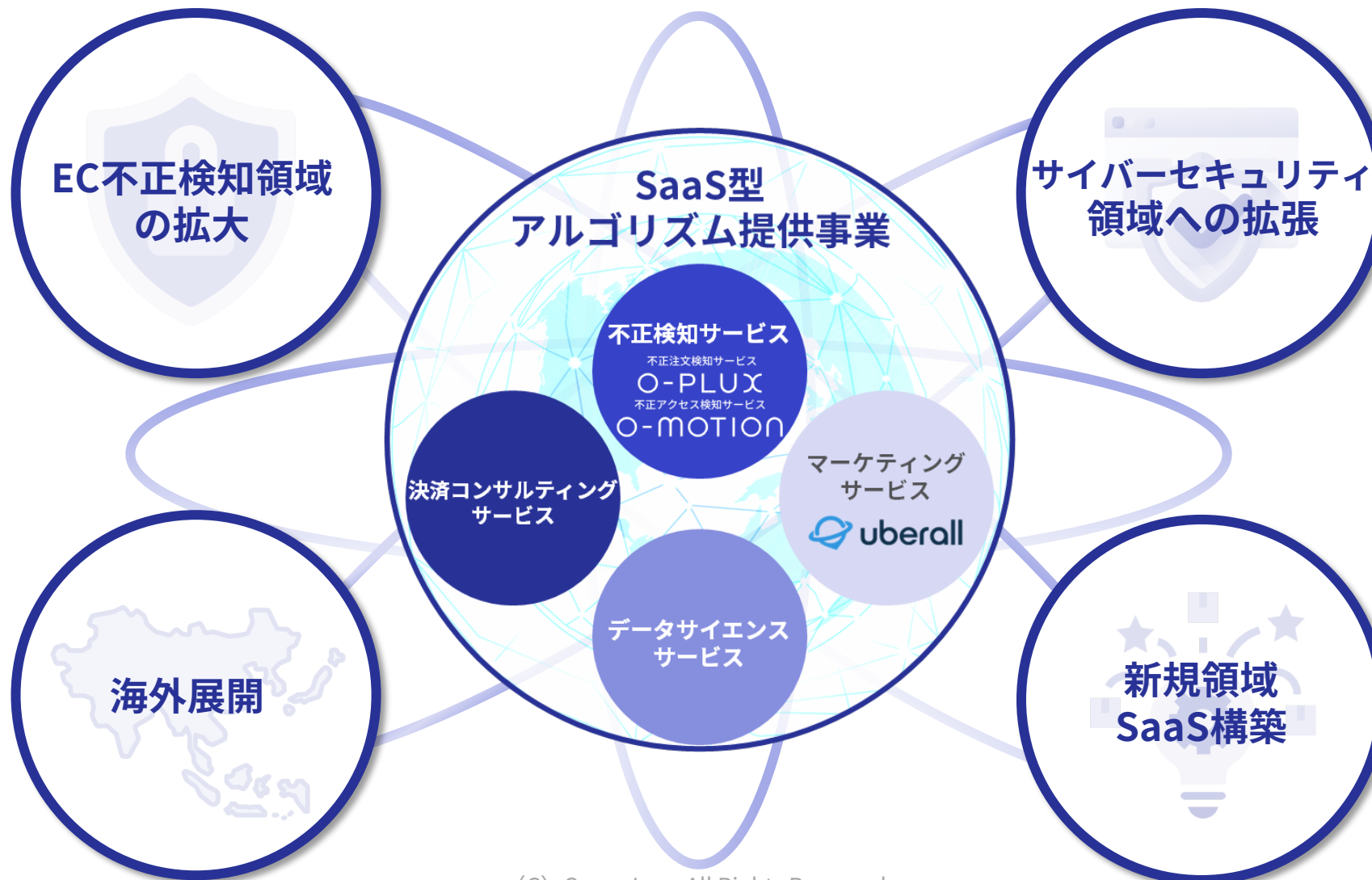
SAKIGAKE KPI

データの集計・可視化から、要因分析、KPI算出、分析報告とその後のご提案まで実施。1億レコードまで、30営業日・200万円で提供するデータ分析サービス。

成長戦略・事業拡大に向けた4つの成長戦略



4つの成長戦略により、不正検知サービスを中心に事業拡大を加速し、自ら市場を創出する。





今後、不正被害の社会問題化や規制強化等により、不正検知の需要は確実に拡大するものと想定。
3つの戦略により「O-PLUX」の更なる成長を図る。



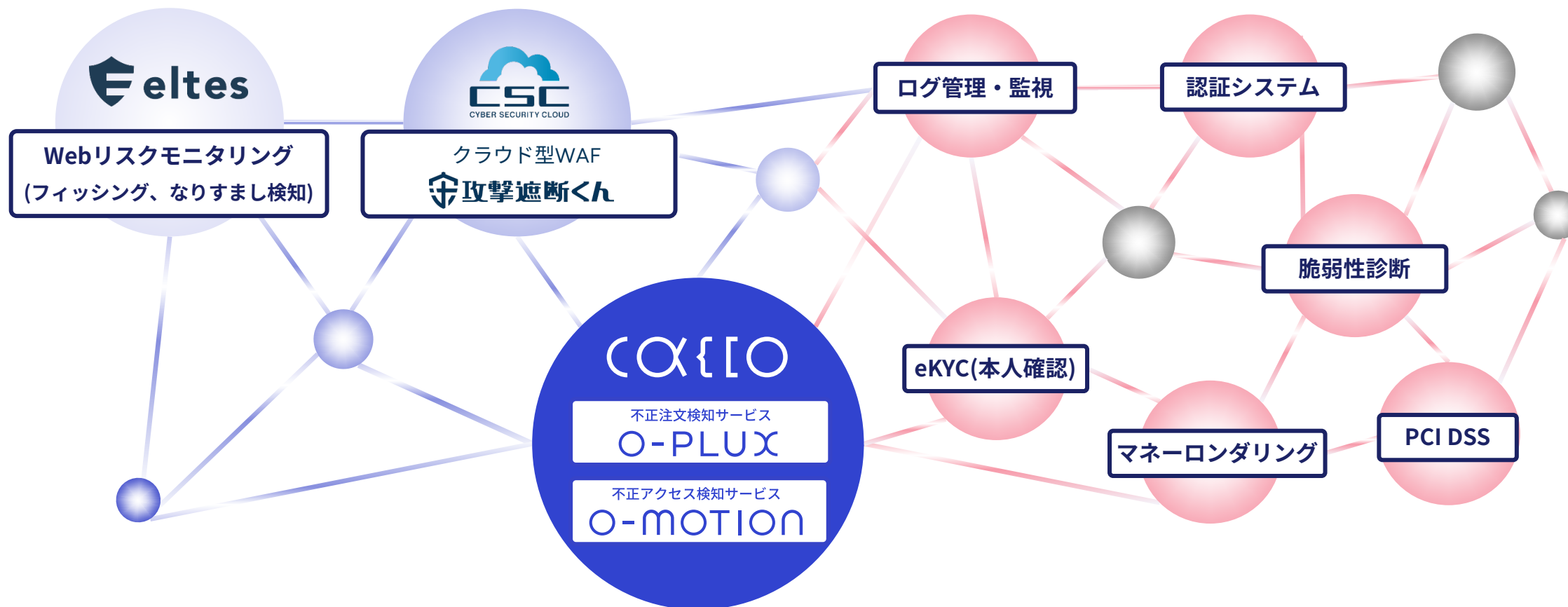
成長戦略・サイバーセキュリティ領域への拡張



FY2021にサイバーセキュリティクラウド社、エルテス社と提携。
技術開発とともにM&A・アライアンスも視野に入れ、サイバーセキュリティ領域への事業拡張を進める。

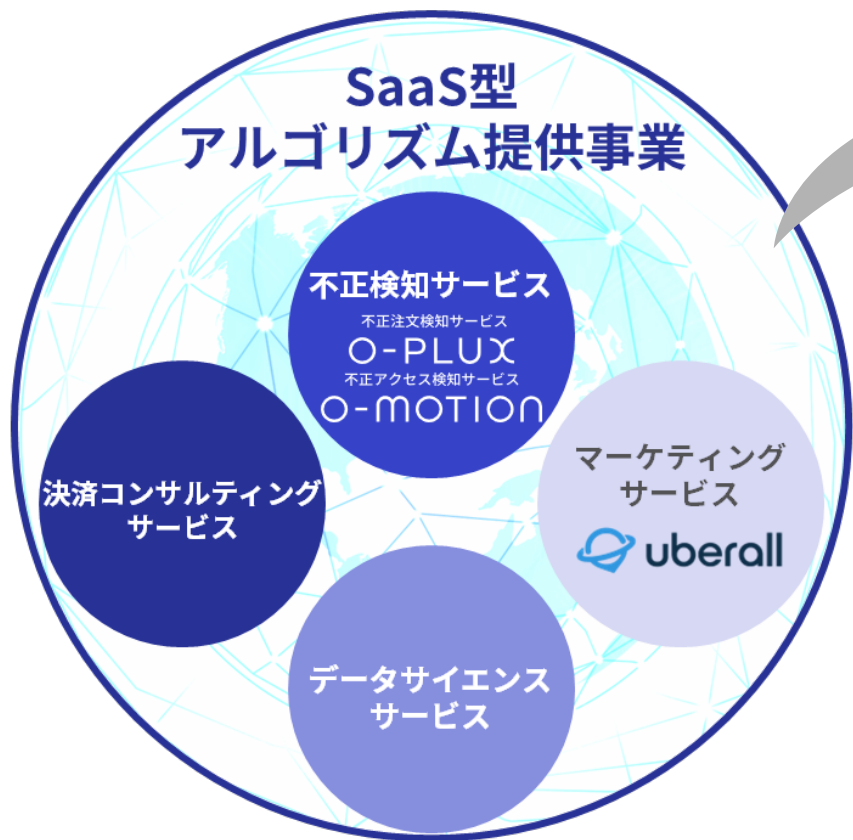
既存アライアンス

新領域





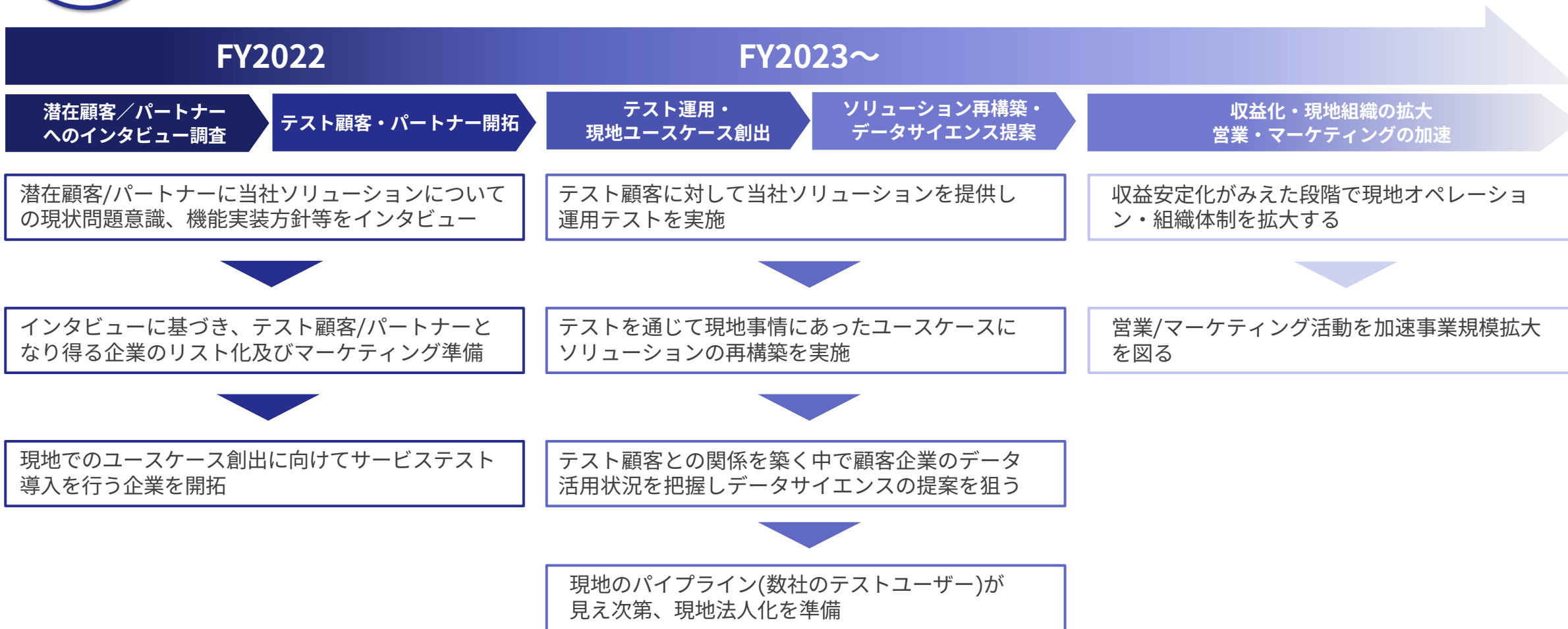
これまで培ってきた当社のサービス・ノウハウを活用し、東南アジアのEC・金融領域に展開を図る。



成長戦略・海外展開のロードマップ



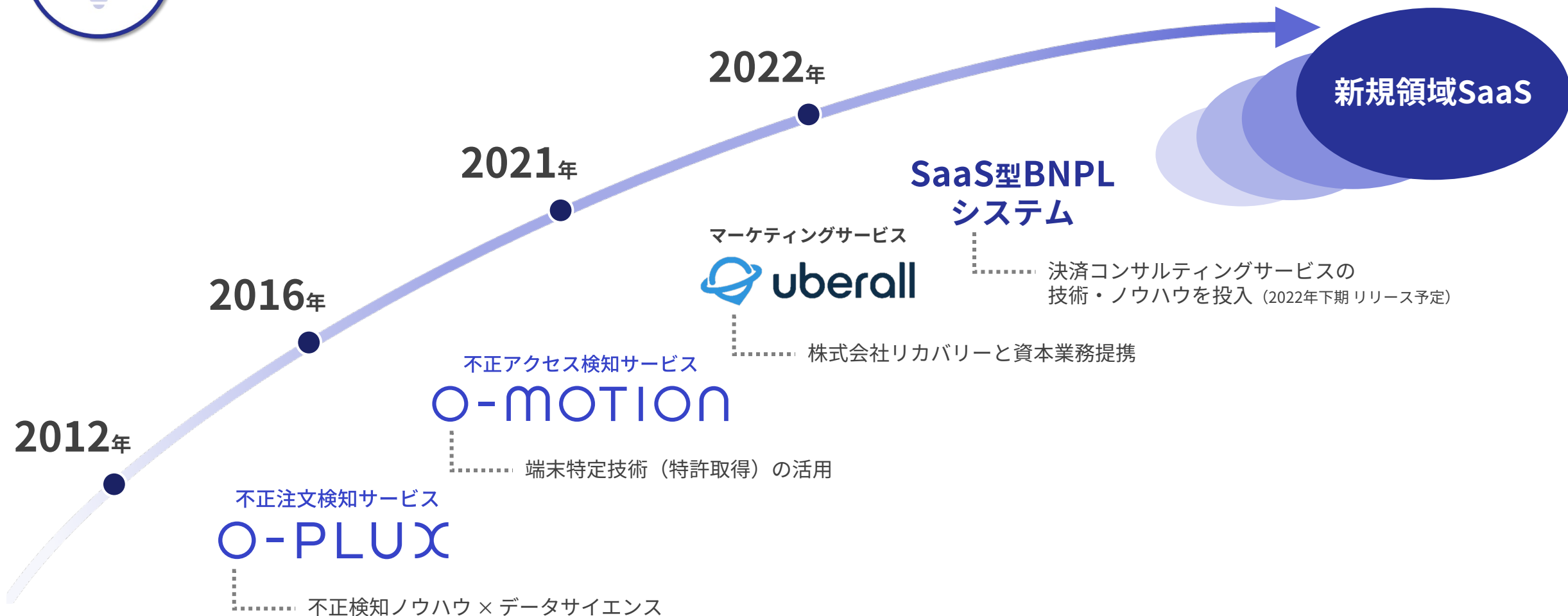
FY2022 2Q 迄で東南アジアの市場把握及び潜在顧客/パートナーへのインタビュー調査が完了。
続いて、現地でのユースケース創出に向けてサービステスト導入を行う企業を開拓中。



成長戦略・新規領域のSaaS型サービスの構築



データサイエンスをベースに多様な分野のノウハウを蓄積するとともに、M&A・アライアンスも視野に入れ、新規領域のSaaS型サービスの構築を図る。



社会の変化と経営ビジョンの実現

Cacco Evolutionary Purpose

未来のゲームチェンジャーの「まずやってみよう」をカタチに

高度なリスクコントロールによりイノベティブなチャレンジが加速する世の中に

— 不正対策が市場のスタンダードに —

- 安全を求める消費者ニーズの高まり
- 健全な市場発展のための規制強化

— 顕在被害のみを対策 —

- EC市場の持続的な成長
- 不正被害の急増

FY2021末時点

4つの成長戦略

新規領域
SaaS構築

データサイエンスをベースに多様な分野のナレッジを蓄積し新規領域のSaaSを構築

海外展開

当社のサービス・ノウハウを東南アジアに展開

サイバーセキュリティ
領域への拡張

技術開発とアライアンスでサイバーセキュリティ領域を拡張

EC不正検知領域
の拡大

- ① 導入障壁の解消
- ② プロダクトの付加価値向上
- ③ 販路拡大・市場開拓

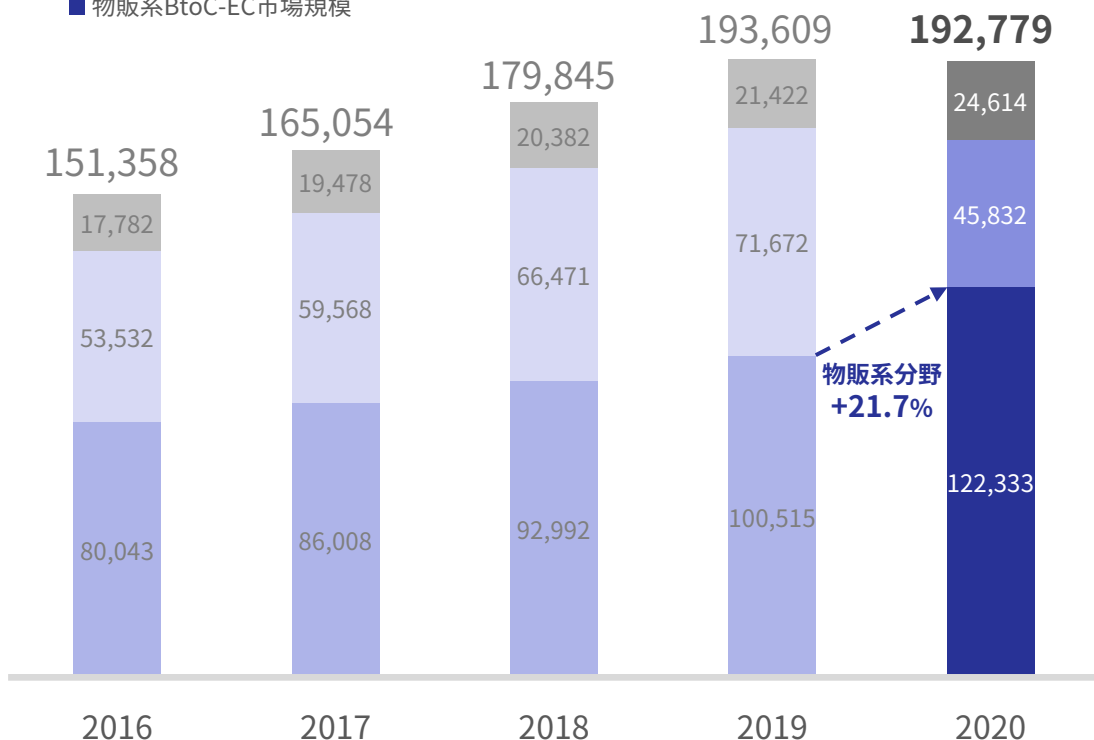
EC市場の成長に比例してクレジットカードの不正被害（番号盗用被害）が拡大。

- 割賦販売法改正、「クレジット・セキュリティ対策ビジョン2025」が公表される等、不正対策に対する社会的需要が高まっている。

日本のBtoC-EC市場規模

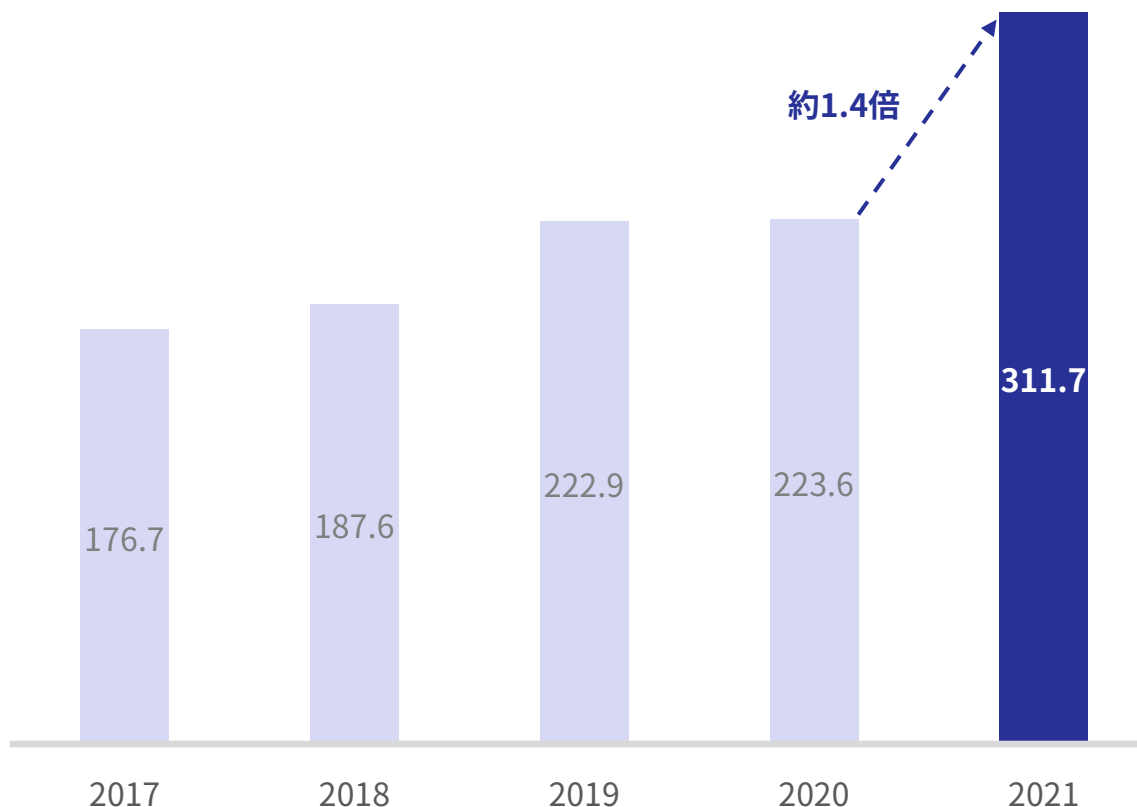
(金額単位：億円)

- デジタル系BtoC-EC市場規模
- サービス系BtoC-EC市場規模
- 物販系BtoC-EC市場規模



日本のクレカ不正被害額（番号盗用）

(金額単位：億円)

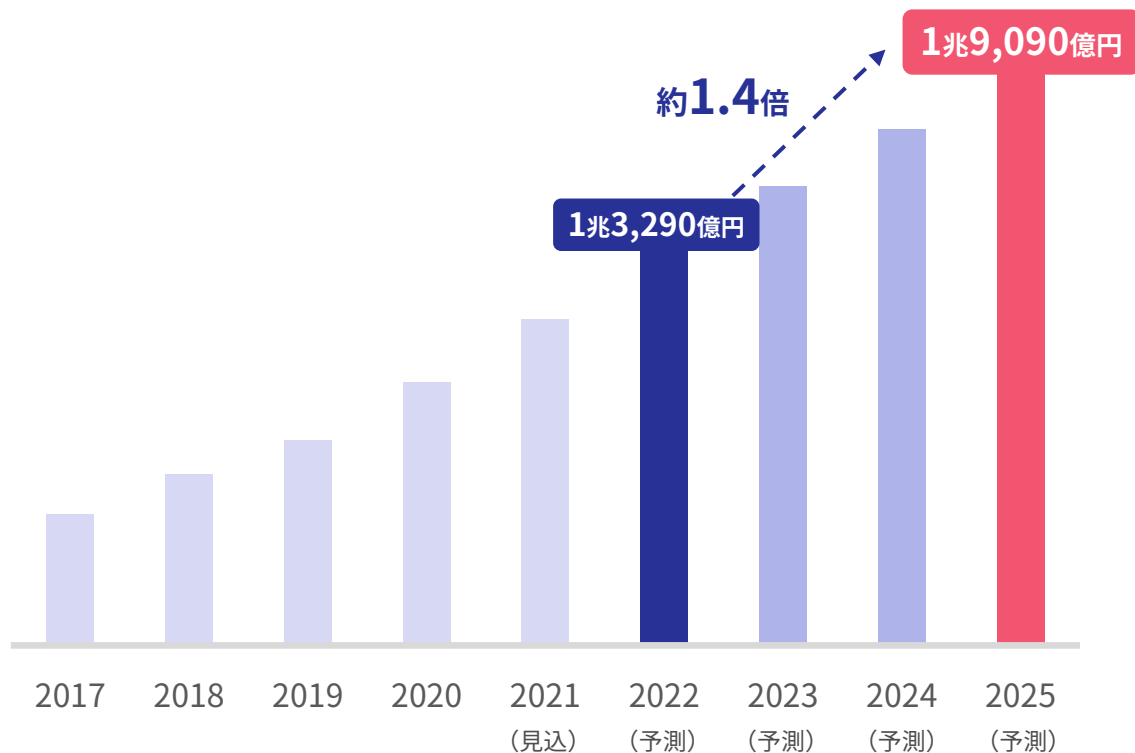


出典：経済産業省 商務情報政策局 情報経済課「令和2年度産業経済研究委託事業（電子商取引に関する市場調査）報告書」
一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」2022年3月

(C) Cacco Inc. All Rights Reserved.

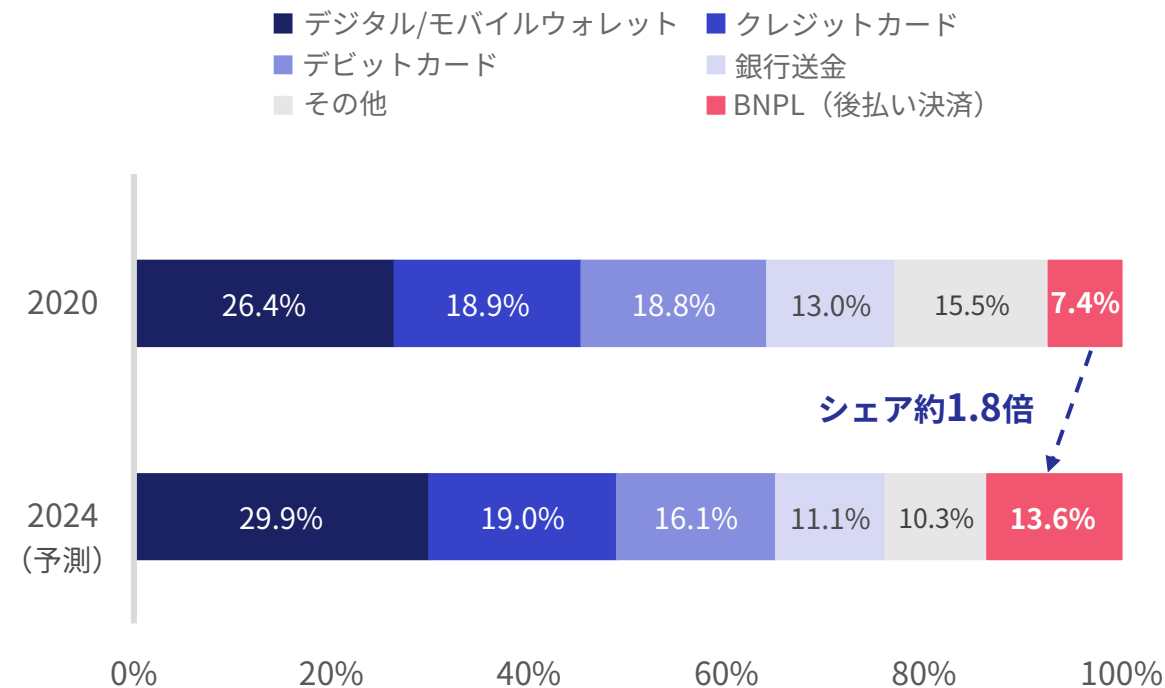
BNPL市場は、国内外で持続的に成長しており、今後も更なる利用拡大が見込まれる。

国内のBNPL市場推移



出典：矢野経済研究所「オンライン決済サービスプロバイダーの現状と将来予測 2022年版」

北米におけるBNPLの利用率予測



出典：Worldpay「Global Payments Report2021」

不正アクセス後に行われる不正行為の約7割が金融サービス・EC分野での不正。
また、不正アクセスによる個人情報漏えい等の情報流出被害も後を絶たない状況。

不正アクセス後の不正行為ランキング

1位	インターネットバンキングでの不正送金等	45.7%
2位	インターネットショッピングでの不正購入	23.0%
3位	メールの盗み見等の情報の不正入手	11.5%
4位	知人になりすましての情報発信	4.7%
5位	オンラインゲーム・コミュニティサイトの不正操作	4.3%
6位	暗号資産交換業者等での不正操作	1.3%
7位	ウェブサイトの改ざん・消去	0.5%
8位	インターネットオークションの不正操作	0.3%
9位	その他	8.6%

不正アクセスによる被害の事例（2022年一部）

被害発生時期	被害先	被害内容
2022年6月	大手衣類販売企業	運営するマーケットプレイスがサイバー攻撃を受けた影響で、データベースに登録されていた顧客情報約275万件および金融機関情報10件が流出した可能性。
2022年5月	大手酒造企業	運用するサーバーがランサムウェアに感染した影響から、同社や子会社の保有する顧客や取引先等の情報データ約2万7,700件が外部流出した可能性。
2022年5月	大手製菓企業	運営するオンラインショップのシステムに脆弱性があり、過去クレジットカード決済したユーザーのカード情報1万4,127件が流出した可能性。
2022年5月	EC企業	運営するオンラインショップがサイバー攻撃を過去カード決済したユーザーのクレジットカード情報16,093件が流出し、不正利用された可能性。
2022年5月	クレジットカード事業企業	運営サイトがサイバー攻撃を受け、ウェブサーバーに記録されている個人情報や認証情報、加盟店情報等4万4,559件が外部流出した可能性。
2022年5月	大手薬局	メールサーバーに登録されていたメールアカウント1件から、約5万件のスパムメールを発信。
2022年4月	公益社団法人	職員の端末がEmotetに感染した影響で、端末内に記録されていたアドレスデータおよび3,265件の電子メール情報が流出した可能性。
2022年4月	大手ビル開発企業	運用するサーバーがサイバー攻撃を受け、同社が保有している個人情報4,650件が流出した可能性。

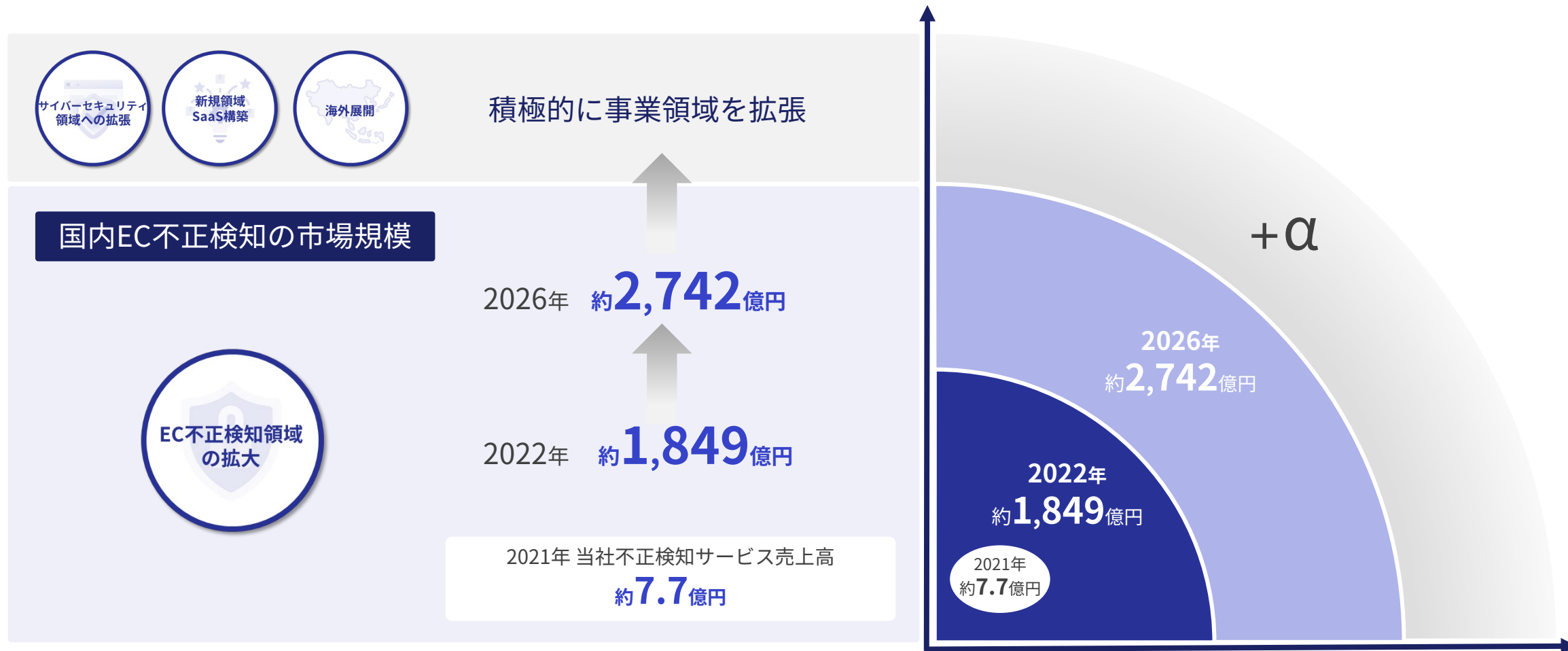
出典：警察庁・総務省・経済産業省 令和4年

「不正アクセス行為の発生状況及びアクセス制御機能に関する技術の研究開発の状況（令和3年度）」

成長戦略・市場規模・不正検知サービス市場の拡大



拡大が見込まれる国内EC不正検知領域を主軸としながら、積極的に事業領域を拡張していくことで、更に大きな市場で事業を展開していく。

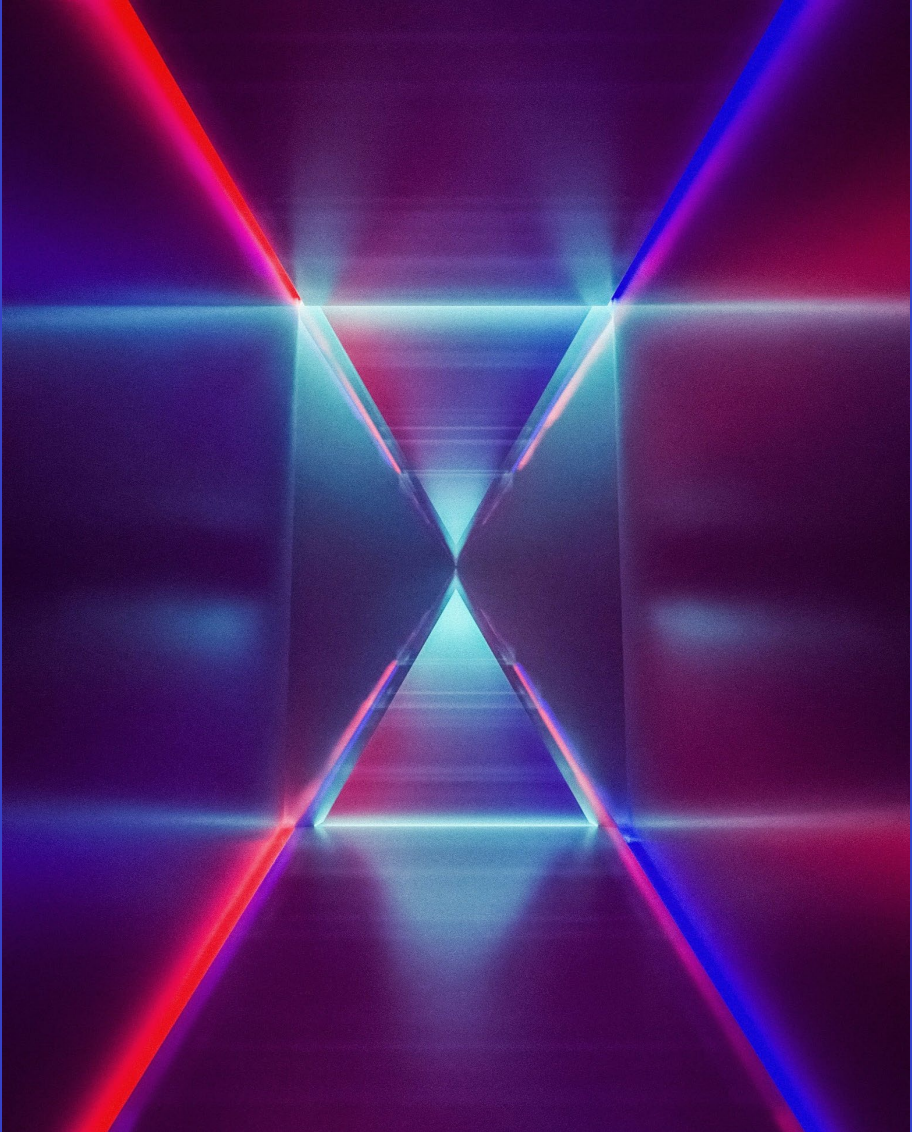


出典：「FRAUD DETECTION AND PREVENTION Global Market Trajectory & Analytics GLOBAL INDUSTRY ANALYSTS.INC. 2021年5月」（1ドル=110円で計算）

(C) Cacco Inc. All Rights Reserved.

2022年12月期 通期業績見通し

Forecast Financial Results of the Fiscal Year
Ending December 31, 2022



2022年12月期 通期業績見通し・サマリー



(金額単位：百万円)

	FY2021 実績	FY2022 予想	前年比
売上高	951	1,102	+15.9%
(不正検知サービス売上高)	773	875	+13.2%
営業利益	178	191	+7.1%
(営業利益率)	18.8%	17.4%	▲1.4pt
経常利益	170	195	+14.5%
(経常利益率)	18.0%	17.7%	▲0.2pt
当期純利益	120	137	+14.3%
EPS (円)	45.90円	52.28円	+13.9%

売上高 前期比 +15.9%

「不正チェッカー」等の新ラインアップの拡販、アライアンスによる販路拡大等により、不正検知サービスは、前期比+13.2%の増収を見込む。

加えて、決済コンサルティングサービス・データサイエンスサービスの収益拡大により、売上高全体としては、前期比+15.9%の増収を見込む。

経常利益 前期比 +14.5%

ソフトウェア（O-PLUXアーキテクチャ刷新・SaaS型BNPLシステム）に係る減価償却費の増加等により利益率は若干低下するものの、収益拡大により経常利益は前期比+14.5%の成長を見込む。

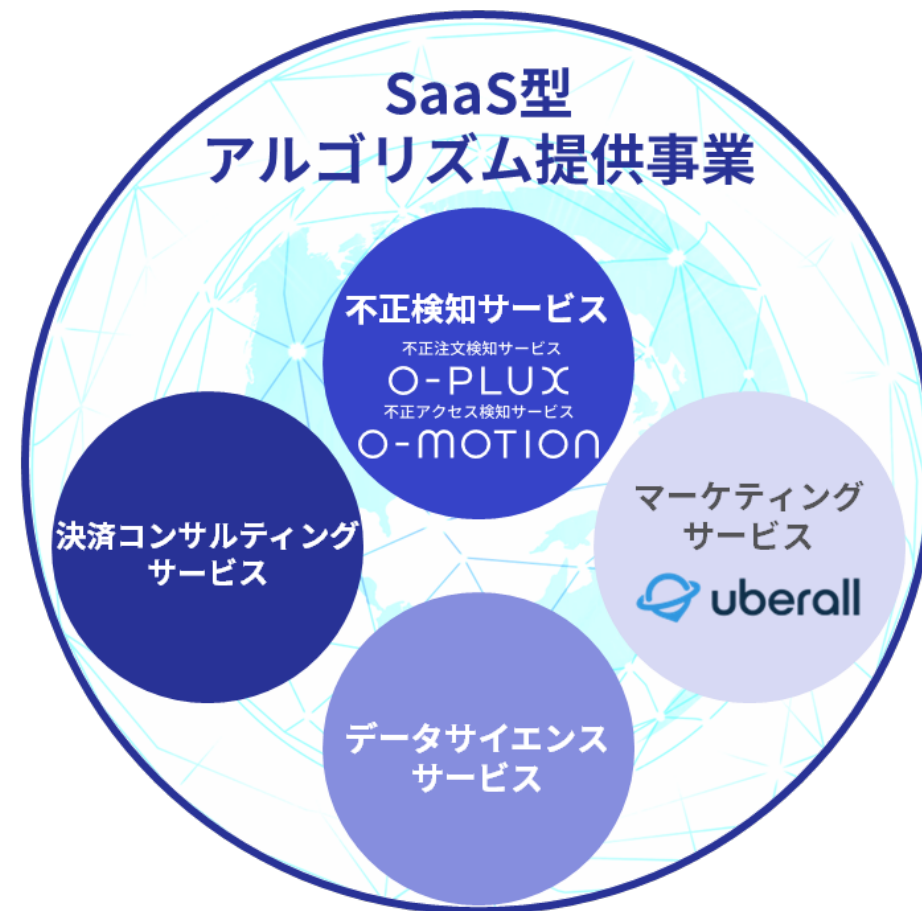
Appendix



社名		<u>かっこ株式会社</u> (Cacco Inc.)
代表者		代表取締役社長CEO 岩井 裕之
事業内容		SaaS型アルゴリズム提供事業 (不正検知サービス、マーケティングサービス、決済コンサルティングサービス、データサイエンスサービス)
資本金		365,308,435円 ※2022年7月31日時点
上場市場		東京証券取引所グロース市場 (証券コード 4166)
設立		2011年1月28日
住所・TEL		東京都港区元赤坂一丁目5番31号 TEL : 03-6447-4534
特許		特許第6534255号・特許第6534256号・特許第6860156号
認証		ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム) ISO/IEC 27001:2013 JIS Q 27001:2014 登録番号 : IA120255 プライバシーマーク® 第10824248 (04) 号
持分法適用関連会社		<u>株式会社リカバリー</u> (ローカル検索マーケティングソリューション「Uberall」の日本統括代理店)

沿革

- 2011 ● 1月 創業
(不正対策コンサルティング)
- 11月 決済コンサルティングサービス開始
(BNPL※事業者の決済システム開発・コンサルティング)
- 2012 ● 6月 不正注文検知サービス「O-PLUX」リリース
- 2015 ● 1月 データサイエンスサービス開始
(小売・製造業等のデータ解析・アルゴリズム開発)
- 2016 ● 7月 不正アクセス検知サービス「O-MOTION」リリース
- 2020 ● 12月 東証マザーズ（現グロース）上場
- 2021 ● 8月 マーケティングサービスに参入
(株式会社リカバリーと資本業務提携)



※BNPL：Buy Now Pay Laterの略。後払い決済のこと。

1

データサイエンスに関する知見とセキュリティ領域における高い技術

(取得特許3件：「特許第6534255号」「特許第6534256号」「特許第6860156号」)

2

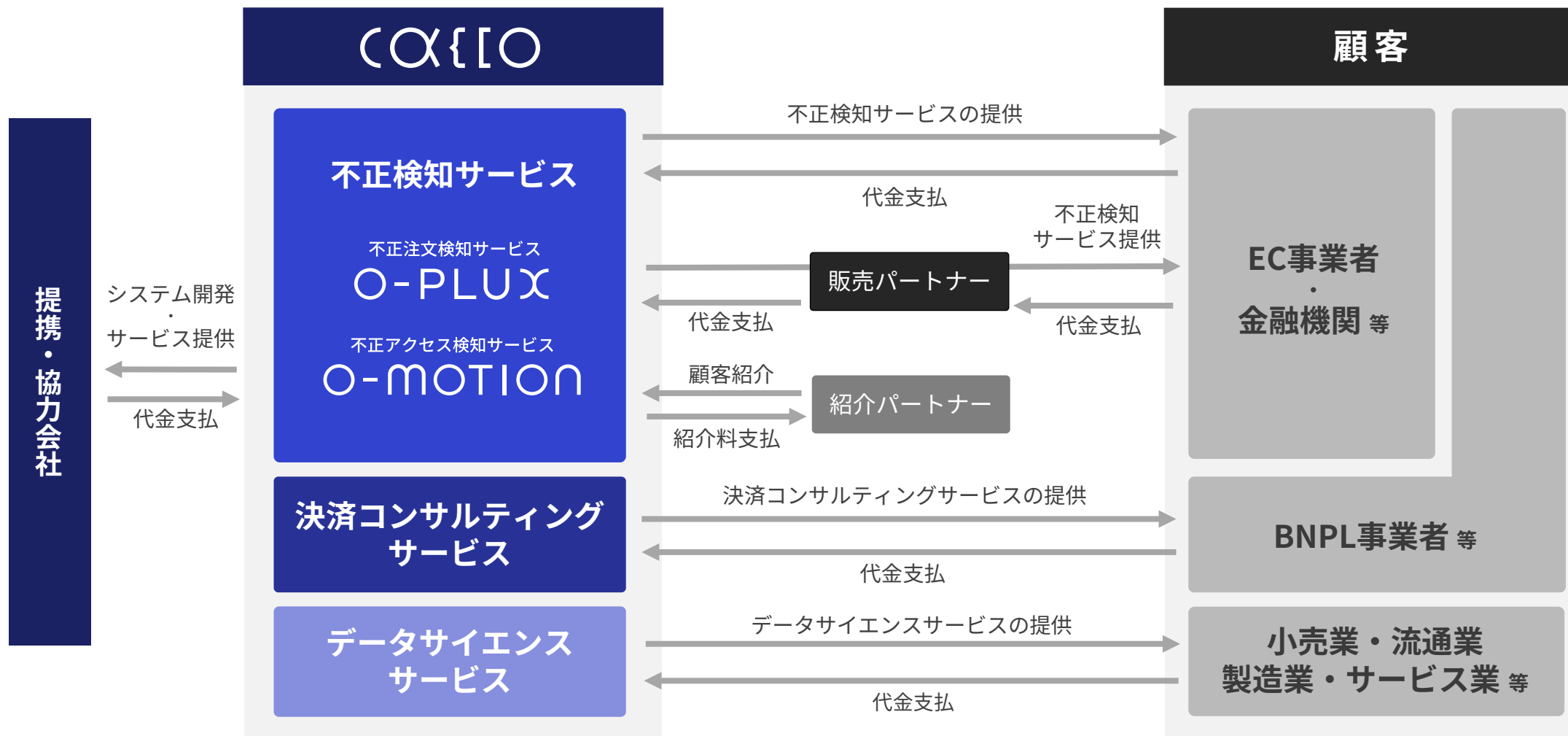
EC領域とペイメント領域における当社サービス導入数国内No.1※の実績

(※株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2022年5月末日時点)

3

中核サービスであるO-PLUXの利用拡大によるストック収益の堅調な成長

(FY2022 2Q累計の当社売上高全体に占める **ストック収益の割合は72.4%**)

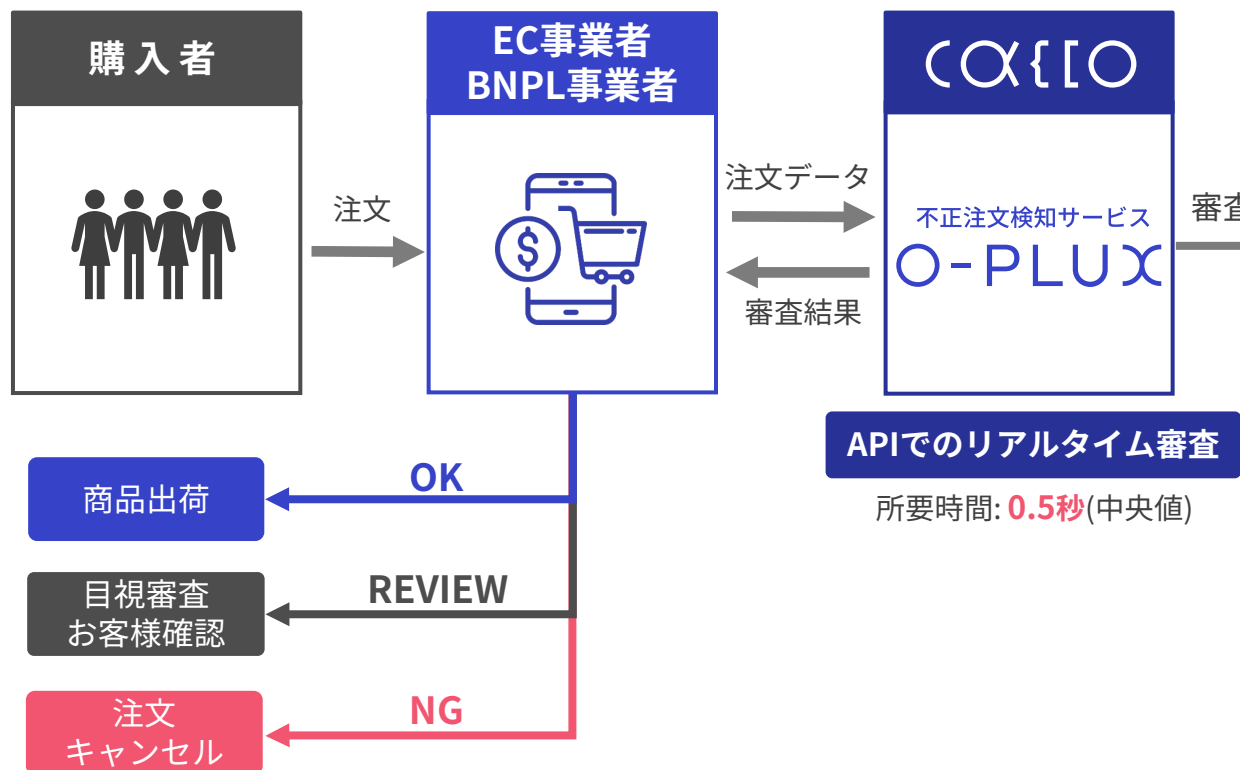


Appendix・不正注文検知サービス「O-PLUX」の概要



ECにおける代金未払い等の不正注文を独自の審査モデルでリアルタイムに検知するSaaS型サービス

審査の流れ



主な審査機能

名寄せ処理



表記の異なる同一住所や姓名を正規化処理して活用
ex: 赤坂4丁目3番地2号
赤坂4-3-2

デバイス情報



- ・IP、cookieによる同一視判定
- ・海外からのアクセス判定
- ・言語設定、タイムゾーンによる外国人のなりすまし判定 etc...

外部DB連携



- ・空室の判定 (ウィークリーマンション・ホテルの判定)
- ・海外転送サービスの判定
- ・電話番号疎通の判定 etc...

行動分析



短期間の大量購入やなりすましなど、不正者に顕著な情報や行動パターンを分析して検知

共有ネガティブ



利用企業で共有されているネガティブデータベースとの一致を判定

製品における差別化要因

1

国内不正注文データの大量保有による
高い不正検知精度 ※導入数国内No.1の実績

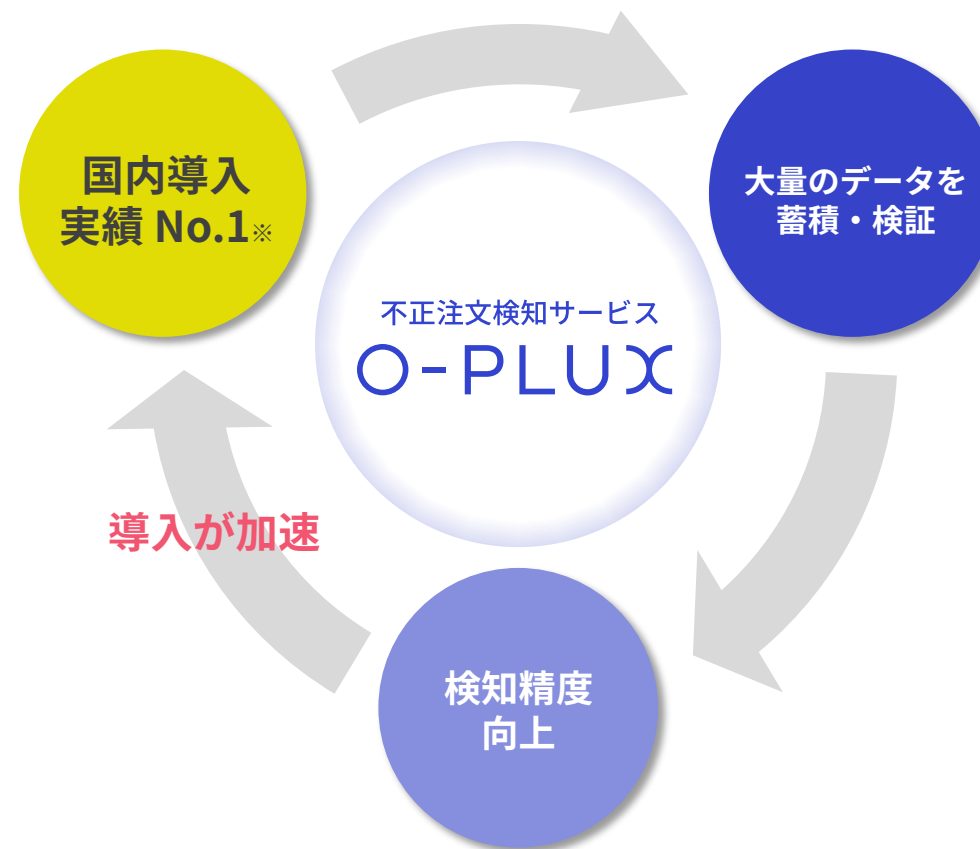
2

データサイエンス・セキュリティの技術
とノウハウで独自の検知モデルを構築

3

国内製品・自社製品ならではのスピーディ
かつ柔軟なモニタリング&サポート体制

競争優位性が維持される好循環サイクル



※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2022年5月末日時点



従量課金と定額課金を合算した**ストック収益**が、売上高全体の**約7割**を占める安定的な収益構造。
 さらに、従量課金により、**EC市場・BNPL市場の拡大**に伴うアップサイドポテンシャルを享受可能。

「O-PLUX」のストック収益が伸びる3つの要素

顧客数

BNPL事業者

- EC事業者
- EC事業者
- EC事業者

(t) BNPL事業者を通じてEC事業者の利用が継続的に拡大。

EC事業者 (直販クライアント)

(t) ①導入障壁の解消 ②プロダクトの付加価値向上 ③販路拡大・市場開拓により更なるシェア拡大を図る。



顧客単価

審査料金 (従量課金)

月額料金 (定額)

EC市場・BNPL市場の成長に比例し、審査件数が拡大することにより、従量課金である審査料金の増加が見込める。



クロスセル

不正アクセス検知サービス
O-MOTION

マーケティングサービス
uberall

×

決済コンサルティングサービス

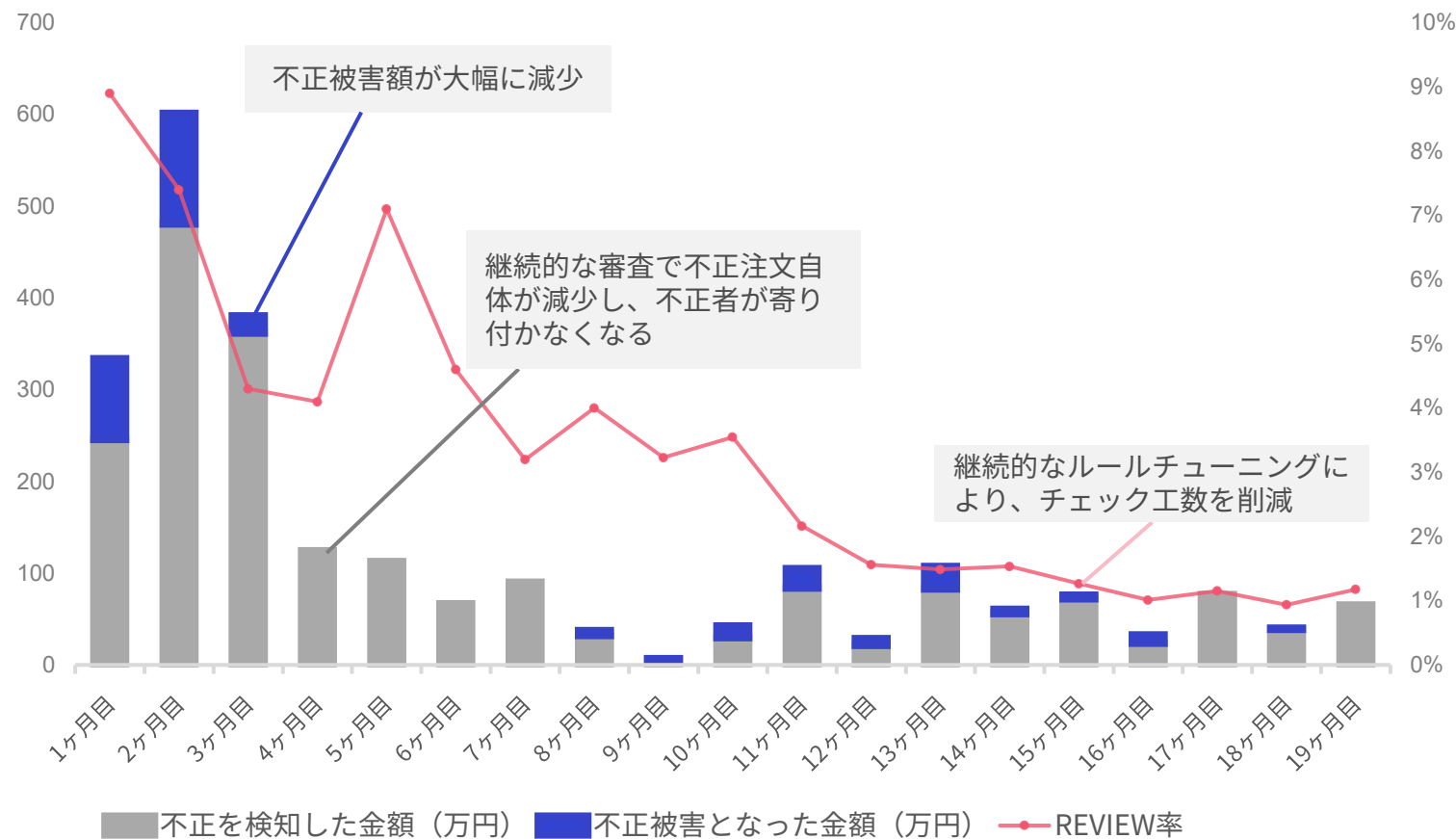
データサイエンスサービス

各サービスとのクロスセルにより更なる収益拡大を図る。



「O-PLUX」によってECにおけるクレジットカードの不正利用を5年間累計で約2.5億円検知

総合小売業	
年間流通額	年間70億円
顧客の課題	ECにおけるクレジットカードの不正利用 (最大1,000万円/月)
成果	導入初年度1億円の不正利用を検知 約5年間のご利用期間で 累計約 2.5億円 を検知



※不正を検知した金額とは、審査結果「NG」または審査結果「REVIEW」でカード属性の不一致、出荷前の本人確認等によりチャージバックとなる前に不正確定（ネガティブ登録）された取引の合計金額となります。
 ※REVIEW率とは、審査件数全体に対する審査結果「REVIEW」の件数の割合となります。

Appendix ・ 不正注文検知サービス「O-PLUX」 | 導入企業



「O-PLUX」は、様々な業界に導入が進んでおり国内導入数No.1を獲得※1。
不正注文被害を未然に防ぐことで、電子商取引（eコマース）の安全なインフラ構築を推進。

ホビー	食品・健康食品			PC・タブレット	
コスメ・ヘアケア	アパレル・スポーツ			家具・DIY	旅行
映像・音響機器	ネットショッピングモール・MVNO・その他			ホスティング	

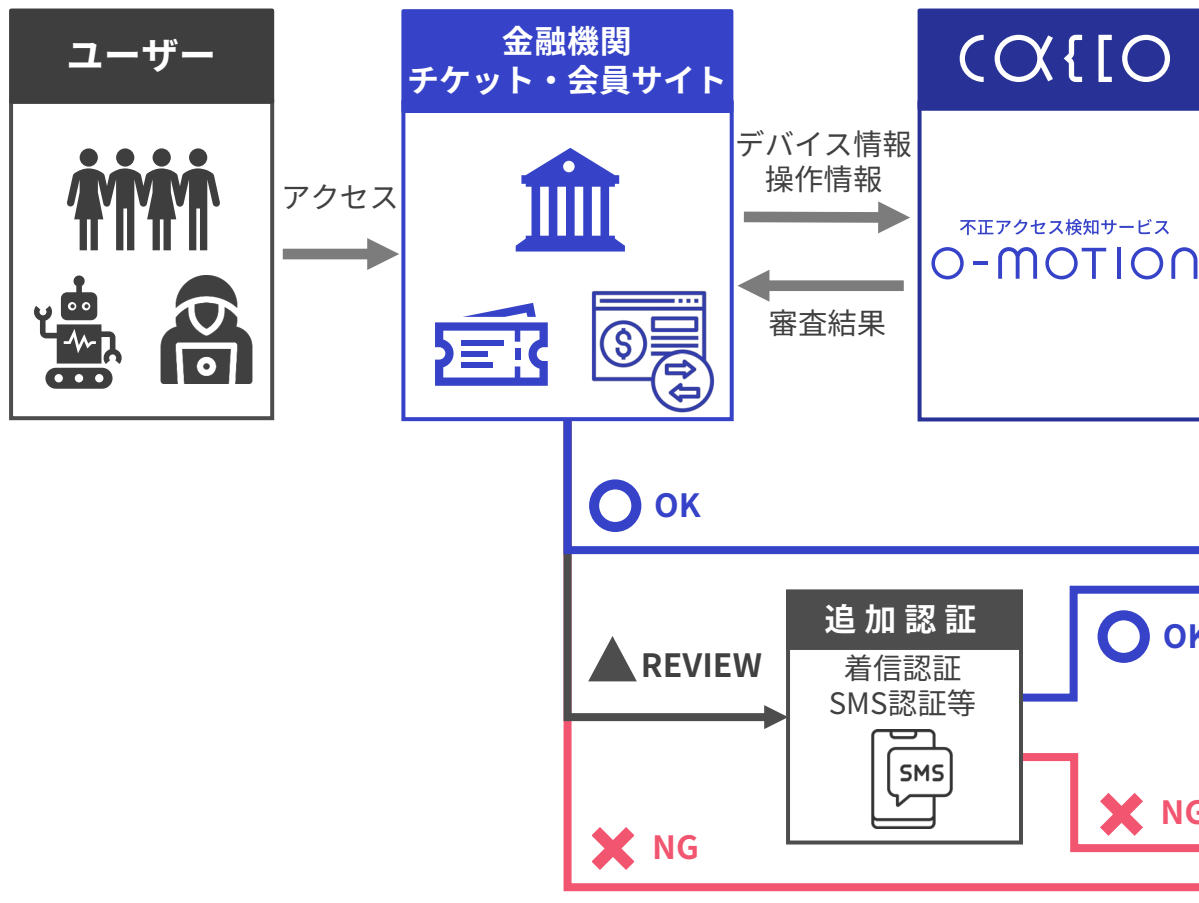
※1 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2022年5月末日時点
 ※2 掲載許諾を得た一部の企業のみ掲載 2022年7月末日時点

Appendix・不正アクセス検知サービス「O-MOTION」



WEBサイトにアクセスしたユーザーの操作情報、デバイス情報等をリアルタイムに分析。
他人のなりすましを識別し、不正アクセスから生じる不正行為(個人情報漏洩・不正購入etc.)を防止。

審査の流れ



主な審査機能

● 端末特定技術



User Agent、Cookie等を用いた従来型の検知では判別しきれなかった不正も判定・検知。

● 操作情報



ユーザー操作から不正傾向を判定し、自動プログラム (Bot) によるアクセスも検知。

● ホワイト・ブラックリスト管理



ホワイト/ブラックリストを容易に管理が可能。

○ OK

アクセスOK



正常ユーザー

正常なアクセスに対しては、煩わしい認証作業を求めることなく、不正アクセス対策が可能

▲ REVIEW

追加認証

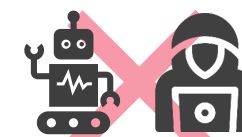
着信認証
SMS認証等



○ OK

遮断

× NG



プログラム 不正者

アーキテクチャ刷新を活かした新規ラインアップを投入することで、潜在顧客のニーズに柔軟に対応し、新規顧客層の開拓・シェア拡大を図る。

不正チェッカー

不正注文検知

「O-PLUX」の一部機能を**業界最安値**※1で提供。未だ小規模のネット通販事業者、現状大きな被害が発生しておらず、今後の被害拡大への備えを必要としている事業者向け。

月額基本料金

4,000円～

(1,000件分の審査費用を含む)

O-MOTION Light

不正アクセス検知

自動プログラム（Bot）による総当たり攻撃や他人のID・パスワードを使った不正者のなりすましを検知。

月額基本料金

10万円～

(アクセス数の上限あり)

O-PLUX Premium Plus

不正注文検知
+
チャージバック
補償

クレジットカードの不正利用被害が発生した場合、**上限なしでその被害額を補償**。（出荷判断代行サービス）

月額基本料金

10万円～

※1 2022年7月末日時点当社調べ

今後もパートナー契約・アライアンス提携を進め、導入障壁の解消、販路拡大によりシェア拡大を図る。

ECパッケージ・ショッピングカート

カード会社



決済代行会社 (PSP)

セキュリティサービスベンダー



※1 EC-CUBEは株式会社イーシーキューブの商標です。
 ※2 2022年7月末日時点。

MEO対策・ローカル検索最適化ソリューション「Uberall」の日本総括代理店である株式会社リカバリーと資本業務提携。マーケティング領域のSaaS事業へ参入。

MEOに必要な管理はすべて「Uberall」で — 世界135万以上の店舗が利用中 —

uberall (ウーバーオール)

Googleビジネスプロフィールだけでなく、Facebook・Instagramなど125以上のメディア、自社サイトまですべての店舗情報を一括管理できるクラウドシステム。

135万店舗で利用

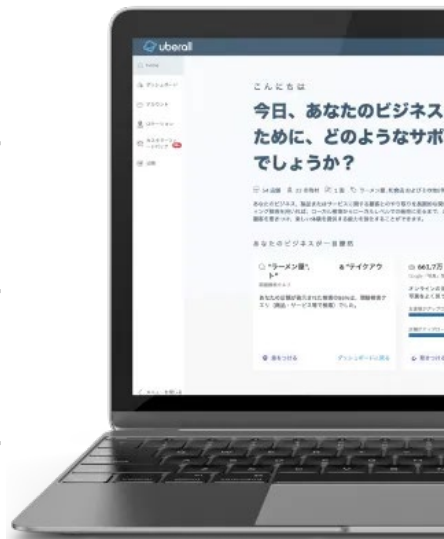
世界中の飲食店・小売店が利用！

125超のSNSやMAP

などのプラットフォームと連携！

Google推奨パートナー

だから全ての最新機能を活用可能！



全ての店舗情報を一元管理

全てのメディアの店舗情報を一元管理出来る為、大幅に作業を効率化。



サイテーション効果抜群

多くのSNSメディアと店舗情報が同期され、表示順位の向上が見込める。



クチコミ把握、返信が簡単

全てのクチコミを把握でき、効率的に返信対応が可能。



自社サイトも管理・対策可能

自社サイトも一元管理。構造化データの自動生成で上位表示にも効果。



徹底的に伴走します

世界標準のMEOメソッドを提供することで、自社運用をバックアップ。

BNPLの構築・立上げについて、サービス構築、決済システム開発、運用サポートまでワンストップで支援。
審査エンジンは不正注文検知サービス「O-PLUX」を提供。



Point 1

複数のBNPL事業の立ち上げ・システム開発の実績

- ・月間取引件数が数百万件規模の決済システムに関する構築実績
- ・BNPL事業立ち上げのサポート実績（事業計画、各種要件定義作成など）
- ・事業開始後のサポート実績（与信、運用構築など）

Point 2

BNPLの運用経験があるコンサルタントによるサポート

BNPLの運用経験豊富なコンサルタントが、お客様の視点に立って最適な提案を実施。

Point 3

国内導入数No.1※の「O-PLUX」による不正注文検知

当社は、シビアな精度が求められる金融・決済分野で不正検知の実績をあげてきました。不正注文検知サービス「O-PLUX」は国内導入数No.1※を獲得しています。

※2022年5月末日時点(株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」)

AI・統計学・数理最適化の技術をもとに、予測のモデル化や機械学習を適用した自動化など、企業活動の中核に貢献するアルゴリズムを開発・提供。

Our approach

SAKIGAKE KPI



データの集計・可視化から、要因分析、KPI算出、分析報告とその後のご提案まで実施。1億レコードまで、30営業日・200万円を提供するデータ分析サービス。

データサイエンス分室



あたかも自社の一部門の様に、データサイエンス資源を月額契約で活用可能。様々なステージの、あらゆる分析ニーズに応える「データサイエンス分室」構想を実現。

アルゴリズムの開発



人間の経験を超える最適化や、自動処理による生産性向上、需要やリスクの予測など、業務の処理において利益拡大を追求するアルゴリズムの開発。

Case studies

最適化

年商1,190億円の壁材メーカー

1700の製品・12の生産ラインにおける生産計画作成。複雑な条件を守りながら、生産量の最大化や、ロスを最小化する生産順を計画。



年間最大1.3億円コスト削減

統計・AI

年商55億円の文具メーカー

カレンダー、手帳、文具類で利益を最大化できる需要予測と、生産指示のためのアルゴリズム開発。欠品による機会損失を最小化。



販売機会損失70%削減

最適化

コールセンター

翌月の日・時間帯単位での需要を予測し、経営指標、従業員の勤務希望、労働条件といった複数の制約を満たす人員配置計画を自動生成。



年間0.6億円コスト削減

DX推進による資源多消費型産業モデルからの脱却支援

データサイエンスサービスによるDX支援によって、生産・販売・流通の最適化及び効率化を推進し、資源多消費型産業モデルからの脱却に貢献します。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

12 つくる責任 つかう責任



コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス体制の強化

当社は、経営の効率化を図ると同時に、経営の健全性、透明性及びコンプライアンスを高めて社会的信頼に添えていくことが、持続的な成長には不可欠であると考えております。その結果が、企業価値を向上させ、株主や債権者、従業員など企業を取り巻くさまざまなステークホルダーへの利益還元につながるとの認識に立ち、日々コーポレート・ガバナンスの強化に努めております。

EC・オンライン取引における安全なインフラ構築

不正検知サービスによって、クレジットカードのなりすまし利用や不正アクセスなどの不正行為を検知し、EC・オンライン取引・キャッシュレス決済等の安全なインフラ構築に貢献します。

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

5 ジェンダー平等を実現しよう

8 働きがいも経済成長も

多様な人材の活躍を支援 働きがいのある就労環境の整備

外国人、子育て世代の女性、インターン生など多様な人材の活躍を支援するとともに、リモートワーク環境の整備・オンラインコミュニケーションの活性化等の取り組みで「働きがいのある会社」ベストカンパニーに選出されました※。



※(株)働きがいのある会社研究所による「2021年版 日本における『働きがいのある会社』ランキング」にランクイン。

本資料の作成について、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。

当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズの変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。

お問合せ・個別取材のお申込みは、下記よりIR担当までご連絡ください。

E-mail : ir@cacco.co.jp

IRサイト : <https://cacco.co.jp/ir/>

C O X { [O

未来のゲームチェンジャーの
「まずやってみよう」をカタチに